

平成21年度（2009年度）

事業報告書

財団法人 日本テニス協会

[目次]

平成21年度主要会議報告		3頁
平成21年度表彰伝達式受賞者一覧		4頁
平成21年度事業報告書(寄付行為事業別)		5頁
平成21年度事業報告書(本部・専門委員会別)		
総務・財務本部	総務委員会	9頁
	公益法人化対策委員会	10頁
	広報委員会	11頁
	IT委員会	12頁
	テニスミュージアム委員会	13頁
強化本部	ナショナルチーム	14頁
	NTC運営委員会	24頁
	ジュニア委員会	25頁
	学生強化委員会	27頁
	ワンコイン制度推進委員会	28頁
	クラブJTA委員会	29頁
普及・指導本部	公認指導者養成委員会	29頁
	普及推進委員会	31頁
	中体連対策委員会	32頁
	スポーツ環境委員会	33頁
	アンチ・ドーピング委員会	34頁
トーナメント本部	ジャパンオープン委員会	34頁
	トーナメント委員会	36頁
	国体委員会	39頁
	実業団委員会	42頁
	ベテラン委員会	44頁
	審判委員会	46頁
専務理事直轄	全国プロジェクト	47頁
	財務管理委員会	48頁
常務理事会直轄	倫理委員会	49頁
	危機管理委員会	49頁
	国際委員会	50頁

平成21年度主要会議報告

平成21年

4月16日(木)	第1回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月13日(水)	第2回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
5月29日(金)	第2回理事会	岸記念体育会館1階会議室
5月29日(金)	第1回評議員会	岸記念体育会館5階会議室
6月19日(金)	第3回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
7月23日(金)	第4回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
8月27日(木)	第5回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
9月24日(木)	第6回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
10月22日(木)	第7回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
11月26日(木)	第8回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館1階会議室
12月17日(木)	第9回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室

平成22年

1月21日(木)	第10回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
2月25日(木)	第11回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館5階会議室
3月11日(木)	第12回常務理事・本部長・委員長会議	岸記念体育会館1階会議室
3月17日(水)	第3回理事会	岸記念体育会館1階会議室
3月17日(水)	第2回評議員会	岸記念体育会館5階会議室

以上

平成21年度表彰伝達式受賞者一覧

功労賞

日本テニス協会：明石康・野崎拓哉・倉光哲・高橋甫・橋爪功・クルム伊達公子
北海道テニス協会：杉村潤・緒方壽人
東北テニス協会：菊池眞博
北信越テニス協会：三村功・山元政明
関東テニス協会：福田加代子・本村陽一・中陳敏雄・福澤智・小泉弘子・佐原一二
青柳良延・村上交周
東海テニス協会：服部龍夫
関西テニス協会：北風博・三毛晴子・齋藤宣孝
中国テニス協会：安部計一

優秀団体賞

日本テニス協会：湘南工科大学附属高校

最優秀選手賞

ナショナルチーム：杉山愛
J T A : 国枝慎吾

優秀審判員賞

審判委員会：鈴木崇史

ジュニア大賞

ナショナルチーム：井上雅

企業賞

J T A : グローブライド株式会社・大塚ターフテック株式会社
東北テニス協会 : 株式会社岩手ホテルアンドリゾート・有限会社ワイムズテニス企画

メディア賞

広報委員会：一般社団法人共同通信社

以上

財団法人 日本テニス協会 平成21年度事業報告書

自平成21年4月1日至平成22年3月31日

1. テニスの普及及び指導

- (1) 中学校、高等学校指導者及び選手に対する支援事業の策定（ジュニア委員会）
- (2) 全国プロジェクトが推進するブロックトレセン構想での推進策への協力（ジュニア委員会）
- (3) ナショナルトップコーチ派遣ブロックジュニア及び指導者講習会（ジュニア委員会）
- (4) J T Aホームページを利用した広報事業（ジュニア委員会）
- (5) 中学校・高等学校指導者に対する支援事業（公認指導者推進委員会）
- (6) 公認指導者を対象とした指導教本制作に関する事業（公認指導者推進委員会）
- (7) 47都道府県テニス協会と他団体との協調と連携により、より多くのテニス愛好家を生み出す活動（普及推進委員会）
- (8) キッズテニスプロジェクト普及活動（普及推進委員会）
- (9) マナーキッズテニス普及活動（普及推進委員会）
- (10) ITN システム部会の普及活動・ITNの国内ネットワーク構築のための環境整備（普及推進委員会）
- (11) 日本中体連加盟に関する促進事業（中体連対策委員会）
- (12) JOC スポーツ環境委員会、他の競技団体、テニス団体そして環境保全組織と連携し、テニス界を中心に自然環境保全と整備を目的とした活動〔3R推進〕（スポーツ環境委員会）

2. 全日本テニス選手権大会及びその他のテニス競技会の開催並びに国内で開催されるテニス競技会の後援、公認

- (1) 国内大会の開催ならびに支援、J T A公式トーナメントの開催ならびに支援、2010年テニスカレンダーの日程調整、J T Aランキングシステムの拡充と検証、選手登録の拡充と管理（トーナメント委員会）
- (2) 第68回国民体育大会（東京都）第1回中央競技団体正規視察（国体委員会）
- (3) 第33回全日本都市対抗テニス大会抽選会ならびに準備等（国体委員会）
- (4) 全日本都市対抗テニス大会の実施（国体委員会）
- (5) 第64回国民体育大会抽選会並びに準備等（国体委員会）
- (6) 第64回国民体育大会（新潟県）開催（国体委員会）
- (7) 第24回テニス日本リーグの開催（実業団委員会）
- (8) 第23回全国実業団対抗テニストーナメント（A大会）の開催（実業団委員会）
- (9) 第48回全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル・テニス）の開催（実業団委員会）
- (10) 定例会議、日本リーグ関係会議他の開催（実業団委員会）
- (11) 第71回全日本ベテランテニス選手権大会の開催（ベテラン委員会）
- (12) 第32回全日本ローンコートベテランテニス選手権大会の運営協力（ベテラン委員会）
- (13) 47都道府県協会主催ベテランJ O PグレードE大会F G H大会の推進と運営協力（ベテラン委員会）
- (14) 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力（ベテラン委員会）
- (15) 審判員派遣事業の開催（審判委員会）

3. テニスに関する国際競技会を開催し、又は国際競技会への代表者の選考及び派遣並びに外国からの選手等の招聘

- (1) 2009楽天ジャパンオープンチャンピオンシップの開催（ジャパンオープン委員会）
- (2) 国際大会の開催並びに支援、国際大会のよりよい運営の検討（トーナメント委員会）
- (3) 国際ベテラン大会への選手派遣（ベテラン委員会）

4. テニスに関する公認指導員及び審判員の養成並びに資格認定

- (1) 公認指導者養成事業及び検定会の開催と指導者の質の向上を目的とした研修会の開催。また、普及指導本部ホームページの充実を図る為の準備、指導者のネットワーク作りの構築を行う。(公認指導者養成委員会)
- (2) 国際審判員、レフェリー養成事業並びに審判員、レフェリー養成事業の開催(審判委員会)
- (3) 審判員養成、拡大事業への開催(審判委員会)
- (4) 公認審判員管理登録事業の開催(審判委員会)

5. テニスの競技力向上

- (1) ナショナルメソッド地域伝達講習会の統括業務(ジュニア委員会)
- (2) 選抜大会会場における教育プログラムの実施統括(ジュニア委員会)
- (3) 実業団チームとの合同練習会(学生強化委員会)
- (4) ナショナル代表チーム(Team Japan)の遠征(ナショナルチーム)
- (5) 国際総合競技大会(JOC関連事業)サポート体制の強化(ナショナルチーム)
- (6) ナショナル代表チーム・ナショナル代表候補およびナショナルメンバーのキャンプ(ナショナルチーム)
- (7) 国内外遠征へのサポートスタッフ派遣(ナショナルチーム)
- (8) 選手教育を主眼においた各種大会における教育プログラム活動(ナショナルチーム)
- (9) テクニカルスポーツサイエンスサポートスタッフの活用(ナショナルチーム)
- (10) 全国各地のコーチとのネットワーク構築(ナショナルチーム)
- (11) ジュニア大会を取り巻く環境の改善(ナショナルチーム)
- (12) ATF諸国との連携によるアジアテニスの振興(ナショナルチーム)
- (13) ワンコイン制度の積極的推進(ナショナルチーム)
- (14) ナショナルチームをサポートするスポンサーの獲得(ナショナルチーム)
- (15) ナショナルチームスタッフとS級コーチの資質向上プログラムの推進(ナショナルチーム)
- (16) テクニカルスポーツサイエンスサポートスタッフの活用(テクニカルサイエンスサポート)
- (17) ナショナル代表選手遠征事前のキャンプ(NTC運営委員会)
- (18) ナショナルジュニア強化合宿(NTC運営委員会)
- (19) 地域選手、指導者に対する合宿(NTC運営委員会)
- (20) NTCに集めた情報分析&発表(NTC運営委員会)
- (21) ワンコイン制度 NTC地域合宿(北海道、東北、関東、中国、四国)(NTC運営委員会)
- (22) 指導者育成講習会(NTC運営委員会)
- (23) 強化指導指針Ⅲの編纂事業(公認指導者養成委員会)
- (24) ジュニア大会のより発展と活性化に協力(トーナメント委員会)

6. テニスに関する競技規則及びアマチュア規定の制定並びにテニスランキングの作成

- (1) 暫定ランキングの管理運用(ジュニア委員会)
- (2) ジュニア大会機構における環境整備(ジュニア委員会)
- (3) ジュニア大会に関する事項(トーナメント委員会)

7. 日本テニス界を代表して、財団法人日本体育協会、財団法人日本オリンピック委員会、国際テニス連盟(略称I.T.F.)及びアジアテニス連盟(略称A.T.F.)に加盟すること

- (1) 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達(国際委員会)
- (2) 海外国際大会への出席及び総合国際競技会への参加(国際委員会)
- (3) 国際団体会議・行事への出席(国際委員会)
- (4) 国際テニス連盟への連携事業(NTC運営委員会)

- (5)財団法人日本体育協会国体競技運営部会への出席（国体委員会）
- (6)財団法人日本体育協会主催日本スポーツマスターズ委員会への出席（ベテラン委員会）

8. 年鑑その他の刊行物の発行

- (1)ルールブックの編集と発行事業（審判委員会）

9. テニスに関する用具及び施設の検定並びに公認

- (1)テニスに関する用具の認定、公認（総務委員会）

10. テニス施設の管理運営

- (1)NTCの運用管理と効果的な施設活用（NTC運営委員会）

11. その他、この法人の目的を達成するために必要な事業

- (1)JTA表彰（総務委員会）
- (2)JTA特別表彰（総務委員会）
- (3)オリジナルコーチの表彰（総務委員会）
- (4)選手報奨金の授与（総務委員会）
- (5)諸規程の新設・改定（総務委員会）
- (6)各種イベント後援申請等の審査（総務委員会）
- (7)杉山愛選手の「新しい門出をお祝いする会」（総務委員会）
- (8)新公益法人制度の下での新法人への移行に向けた準備活動（公益法人化対策委員会）
- (9)JTAコミュニケーションとしての活動（広報委員会）
- (10)JTA公式サイト専用のウェブサーバ構築（IT委員会）
- (11)JTAコミュニケーションとしての活動（テニスミュージアム委員会）
- (12)会議の開催（ジュニア委員会）
- (13)大学生テニス大会を取り巻く環境の改善（学生強化委員会）
- (14)ワンコイン制度の定着と発展（ワンコイン制度推進委員会）
- (15)クラブJTA見直し及び新たな運営の企画（クラブJTA委員会）
- (16)クラブJTAサポート大会の実施（クラブJTA委員会）
- (17)クラブJTA会員組織の拡大（クラブJTA委員会）
- (18)ドーピング検査の実施と協力（アンチ・ドーピング委員会）
- (19)アンチ・ドーピングの啓蒙（アンチ・ドーピング委員会）
- (20)サプリメントに関する指導方針の策定と徹底（アンチ・ドーピング委員会）
- (21)ドクター・トレーナーの派遣（ドクター・トレーナー部会）
- (22)テニス障害の対策（ドクター・トレーナー部会）
- (23)選手の痙攣防止対策の立案・提言（ドクター・トレーナー部会）
- (24)スポーツビジョン(スポーツに必要な視覚能力)の啓蒙と普及（ドクター・トレーナー部会）
- (25)ドクター・トレーナー業務の充実（ドクター・トレーナー部会）
- (26)地域メディカルサポート体制の整備（ドクター・トレーナー部会）
- (27)国体委員会の開催（国体委員会）
- (28)国体常任委員会の開催（国体委員会）
- (29)他のスポーツ・諸外国テニス界の審判育成システムの調査事業の開催（審判委員会）
- (30)審判関連情報提供事業の開催（審判委員会）
- (31)47都道府県トレーニングセンター（ふるさとTC）設置に向けた活動（全国プロジェクト）
- (32)ワンコイン制度の定着と発展（全国プロジェクト）
- (33)国体テニス競技におけるテニスコートサーフェスの検討(国体委員会と連携)（全国プロジェクト）
- (34)JTAの健全な財政体制確立と維持及び適正な会計処理を行う（財務管理委員会）

(35) 新型インフルエンザ対策（危機管理委員会）

(36) その他、JTA 専門委員会活動と事業

平成21年度事業計画に基づき、以下の委員会は専門委員会分掌事項に定められた業務を分担遂行した。

総務委員会、公益法人化対策委員会、広報委員会、IT委員会、テニスミュージアム委員会、ナショナルチーム、NTC運営委員会、ジュニア委員会、学生強化委員会、ワンコイン制度推進委員会、クラブJTA委員会、公認指導者養成委員会、普及推進委員会、中体連対策委員会、スポーツ環境委員会、アンチ・ドーピング委員会、ジャパンオープン委員会、トーナメント委員会、国体委員会、ベテラン委員会、実業団委員会、審判委員会、全国プロジェクト、財務管理委員会、倫理委員会、危機管理委員会、国際委員会

以上

財団法人日本テニス協会 平成21年度 事業報告書

総務・財務本部（本部長：浅沼 道成）

総務委員会（委員長：秋田 修廣）

事業区分：9

事業名：テニスに関する用具の認定、公認

当該期間中に以下、公認・推薦申請（合計45社）を処理した。

①公認：ボール7社12球

②推薦：ラケット、ウェア、コート、シューズ、ネット、ストリング、ラインテープ、スポーツコンタクト、スポーツサングラス、低周波治療器、健康補助食品、計38社

事業区分：11

事業名：JTA表彰

表彰規程に基づき表彰者の選定を行った。表彰者に対しては、平成21年5月29日（金）岸記念体育会館1階会議室において39件の表彰伝達式を行った。

① 功労賞：32名【石坂泰彦・小浦武志・本村道生・青木弼・矢澤猛・柳原香積・宮浦典善・島田茂・畠中君代・別府諸兄・仲島彰信・土屋善二・橋本有史・助川卓行・長澤茂嗣・八木真理・八橋徹英・大口孜・横沢規佐良・辻修身・小倉正美・森田哲士・木村喜美雄・三國晃・益子和夫・西山征・原山寛・藪田好司・松尾孝義・坂上日出夫・屋茸道信・大内俊明】

② 優秀団体賞：1社【三基商事株式会社】
2校【早稲田大学・長尾谷高等学校】

③ 優秀選手賞：1名【杉山愛】

④ 優秀審判員賞：1名【川廷尚弘】

⑤ 企業賞：3社1団体【株式会社ビックKテニス・ベストアメニティ株式会社・財団法人軽井沢会テニス部・日本植生株式会社】

⑥ メディア賞：1社【株式会社毎日放送および株式会社GAORA】

事業区分：11

事業名：JTA特別表彰

表彰規程に基づき特別表彰として、引退した岩淵聡選手・本村剛一選手・杉山愛選手・森上亜希子選手に対しその功績を称え、全日本テニス選手権大会の会場にて表彰した。男女シングルス決勝日に、それぞれ引退セレモニーを行った。

事業区分：11

事業名：オリジナルコーチの表彰

ジュニア育成・普及コーチ奨励金制度に基づくオリジナルコーチの表彰は、今回は残念ながら対象者がいなかった。

事業区分：11

事業名：選手報奨金の授与

選手報奨金規定に基づき表彰者の選定を行った。

年間表彰者女子2名【森田あゆみ・藤原里華】に対しては、平成21年11月9日（月）全日本テニス選手権大会のレセプション会場の東京ベイ有明ワシントンホテルにおいて報奨金の授与を行った。

事業区分：11

事業名：諸規程の新設・改定

諸規程の改定を、平成21年度中に合計3件行った。

①改定：就業規則、事務局給与規程、個人情報保護方針

事業区分：11

事業名：各種イベント後援申請等の審査

年間22イベントの共催・後援・公認・承認を審査し常務理事・本部長会議に上程した。

①共催：全日本学生テニス選手権大会

全日本大学対抗テニス王座決定試合

全日本学生室内テニス選手権大会

全国高等専門学校体育大会

第14回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流

②後援：第27回全日本学生庭球同好会選抜ダブルストーンナメント

第22回関東車いすテニス大会

第22回全国ショートテニストーナメント

ねんりんピック石川2009テニス交流大会

日本テニス学会第21回記念大会

2010飯塚国際車いすテニス大会

③公認：第20回Peace Cup国際交流車いすテニス大会

三沢国際車いすテニス大会

第15回国際車いすテニス大会‘仙台オープン2009’

Shounan International Beach Tennis Touanament

JTBA Beach Tennis Tour 2009 9th Match Atami Sun Beach

JBTA Beach Tennis Tour 2009 10th Kanagawa Kawasaki-no-Hama

④協力：第3回全国マナーキッズフォーラム2010

事業区分：その他

事業名：杉山愛選手の「新しい門出をお祝いする会」

平成22年2月26日（金）東京プリンスホテルにて開催。来場者数約250名盛大に門出を祝った。

以上

公益法人化対策委員会（委員長：高橋 甫）

事業区分：11

事業名：新公益法人制度の下での新法人への移行に向けた準備活動

公益法人化対策委員会は、平成21年4月に新公益法人制度の下での日本テニス協会の新法人への移行の準備を目的として発足した。初年度である平成21年度の事業内容は、下記の事業内容に掲げた3項目であった。

事業内容：1.公益財団法人としての認定に必要とされる具体的事項の整理

新公益法人制度については、平成20-21年度に当時の企画委員会が調査を行ってきた経緯がある。公益法人化対策委員会は、そうした調査結果を基に、公益財団法人としての認定に必要とされる具体的事項の整理を行い、さらに平成21年度の主要検討課題として、好ましい事業区分の姿、機関設計、財務課関係、情報開示とガバナンス、地域・都府県協会との関係の在り方を決めた。そして、内閣府公益認定等委員会事務局や文部科学省との会合等を通じて、新法人への移行認定申請に向けたより具体的な検討および提案作りを行った。

2.新法人移行認定申請に向けたロードマップ（行程表）の策定

平成 22 年 3 月 17 日に開催された理事会・評議員会において、日本テニス協会は常務理事会名で「新公益法人制度の下での新法人への移行に関する基本方針案について」を提出、その中で「新法人の姿の方向性」と「移行認定申請に向けたスケジュール案」を配布した。上記理事会・評議員会では、「協会は、公益財団法人への移行認定申請を平成 23 年度に内閣府に対して行う」ことが決議されたが、「新法人の姿の方向性」については次回の理事会・評議員会での合意を目指すこととなった。日本テニス協会は、このスケジュール案の中で、平成 22 年度においては、できるだけ早期に地域・都府県協会、傘下団体、協力団体との間で公益財団法人への移行に関する説明会・意見交換会を開催する方針を打ち出した。さらに日本テニス協会の各委員会との連携の下に、9 月に「新法人の姿」のとりまとめを行い、それをベースに、日本テニス協会は最初の評議員の選任方法・評議員選定委員会の設置案と新法人定款案を作成し、年度内の機関決定をめざすこととした。

3. 「テニス界と公益法人改革」と題したテニス関係団体向け説明資料の作成

公益法人改革が日本テニス協会さらには日本のテニス界にとって何を求めているかについての説明資料を作成した。同資料は、平成 22 年 3 月の理事会・評議員会で配布され、日本のテニス界における公益法人制度改革についての情報の共有化のための努力がなされた。

以上

広報委員会（委員長：八田 修孝）

事業区分：1 1

事業名：JTA コミュニケーションとしての活動

事業内容：下記に事業別に記載

1. ホームページによる JTA 情報発信

毎日 7 万強のアクセスがある JTA ホームページを、利用者がよりわかりやすく、便利でさらに興味の湧くものにするために、最新でニーズにあった情報の随時更新に務めた。トップページの「最新レポート」は専任の担当者を置き、その更新は 36 回に達した。月に平均すると 3 回ではあるが、前年と比較すると格段に増大した。一昨年度より立ち上げた【JTA OFFICIAL BLOG】は年回 200 回の更新を行った。こちらも前年は 150 回であったので大幅な更新回数増であった。この他、4 大大会及び国別対抗戦、国内主要大会への記者派遣も含め、日本人選手の海外での活躍や、国内主要大会の報道にも積極的に行った。

2. 動画配信サイト「TENNIS ONLINE」の運用

国内開催の主要大会を映像に収めインターネットでの動画配信を行う TENNIS ONLINE。取材・編集などに経費が掛かるため課金方式を採用（月額 ¥420-）。今まで映像として見るのでできなかった全日本テニス選手権、日本リーグなど、国内大会の初回戦から、また一般愛好家が非常に興味のあるダブルスなどを配信すると共に、ナショナルチームの練習を紹介するといったレッスンコンテンツも視野に入れ制作、配信。最大のトピックスは JAPAN OPEN 及び全日本選手権で NHK の ON AIR のない全試合（有明コロシアムのみ）を生中継で報道したことである（平成 22 年 3 月末現在で会員数 48,000 人／無料会員を含む）。また試験的ではあったが、全日本ジュニア開催中のセンターコートの試合を生中継した。※生中継の場合、雨天時などの対処方法等、今後運営上検討を要する事項もある。「TENNIS ONLINE」は毎週 2 つのコンテンツを更新（月／8 本）、配信予定は全テニス専門誌に掲載していただいている。

3. メールマガジンの発信

メールマガジン「テニスファン」を継続的に発信し、またデビスカップ、フェドカップ、全日本、JAPAN OPEN など主要大会では毎日速報を発信しテニスファンへのサービスを行った。年間配信回数、147 回。前年度は 80 回の配信であったので、こちらも大幅な配信増であった。

会員数 12,000 名（平成 22 年 3 月末現在）ライター陣の充実を心がけてはいるが、会員数の増大に向け、プロモーションの必要性を感じる。（もったいない！）

4. メディアメールの発信

報道関係者（新聞、テレビ、ラジオ、テニス専門誌等々の媒体）に対しより効率の良い情報発信として、インターネットを利用したメディアメールをより頻度を上げて配信した。従来の記者発表や記者クラブ掲示に加え、より正確、敏速な情報発信が出来るようになった。年間配信回数、65 回。配信人数 95 名（平成 22 年 3 月末現在）。また今年度より、常務理事会の決議事項をテニス専門誌を中心に「分科会以外メディアメール」として配信した。現状、常務理事会決議事項は、会の終了後、岸記念体育会館 3 階の「記者クラブ」にてアナウンスしているが、広報委員会としてはその内容を専門誌、フリーライターなどにも告知するべく行った。概ね好評であったと思う。

5. JTA NEWS の発行

JTA NEWS をアニュアルレポートとして 8 月に発行した。各役員、本部長、委員長などの事業計画、報告や前年度の収支決算などが報告されている。その内容はホームページにもアップされている。発行部数は 11,000 部で都道府県協会及び関連団体に配布され、広報誌としての役割を果たしている。

6. テニスプレーヤーズガイドの発行

東京運動記者クラブ・テニス分科会のご協力により編集。マスコミ、メディア向けのみならずイベントの企画運営を行うスタッフ一般愛好者むけのガイドブックとして、500 部を発行した。

7. プログラム、ポスター、チラシ等の企画、発行

全日本、JAPAN OPEN 等の主要大会のプログラム、ポスター、チラシ等の企画・発行を広報委員会主体の作業として扱い、将来の一貫した JTA ポリシーを入れる企画、編集で作成した。

8. プレスルームの運営

全日本選手権、JAPAN OPEN、デビスカップ、などの主要大会のプレスルームの管理運営を行った。期間中は「ライブスコア」のコンテンツ部分のサポート。この他大会のデイリープログラム。メディアガイドも責任編集。また選手入場時のプロフィールを作成。ホームページのコンテンツ更新を含め、円滑な情報発信を行えるように努力した。

【総括】

広報委員会では今年度、上記項目を主な仕事として活動いたしました。中でも JTA ホームページ（動画サイト、ブログを含む）の質的な向上と維持管理が、一般テニス愛好家を含め、日本テニス協会関連各位への情報発信として最大のツールとの認識で、サーバーの移行を含め大規模なリニューアルを致しましたが、動的コンテンツは完成型にはほど遠く、よりいっそうのボリュームアップが求められています。私たちは日本テニス界でリーダーシップを持てるサイト構築を念頭に置いて活動してゆくべく、より広範囲に活動する努力を続けたいと思います。ATP や WTA ではコミュニケーションというセクションで活動していますが、我々広報委員会は、日本テニス協会（各本部、各委員会）から配信される多くの情報を、各地域・都道府県協会、選手、メディア、一般テニス愛好家の方々に様々な形で伝達すること、なかでも、日本テニス協会や日本選手とテニスファンとの間のパイプ役となることを最大のテーマとして活動します。

以上

IT 企画委員会（委員長：八田修孝）

事業区分：11

事業名：JTA 公式サイト専用のウェブサーバ構築

事業内容：インターネットでの JTA 発信の情報のニーズが年々高まりかつ多様化し、その責務に応じたウェブサーバの構築が今年も急務であった。

1. サーバの増強

JAPAN OPEN 開催時にはレンタルサーバの転送限界を超え、今年も専用サーバ4台体制に変更し乗り越えることとなった（他にライブスコアサーバも3台体制）。その後は、国別対抗戦、ライブスコアに備えて常時2台体制で運用を続けている。現状日本国内に於いて地上波テレビで見ることのできない日本人選手の素顔や試合風景を見ることができる「JTA ビデオレポート」は好評であるため、動画配信能力をキープするためにもサーバ増強を進めたい。

2. サーバサポート・保守

JTA のサーバはサーバレンタル業者に月極でレンタルしている。レンタル費にはセキュリティ機能、アクセス分析機能のオプションが追加されている。

また、サーバのコンテンツのアップ、更新、システム保守を業者に委託している。レンタルサーバではサーバ業者はコンテンツの保守・維持を一切行わないため、Web とメールの両方で常時維持作業が必要になる。特殊な技術を必要とするため、外部委託が適当と判断している。業者への管理委託費用は現時点で特に支払わず、個別のコンテンツ更新依頼に含める形になっている。

3. ファイル共有サーバ運用

事務局内、委員会、多数の委員、ボランティアとの情報共有において、従来のメール、ディスクによるやりとりでは煩雑で混乱しやすく、なんらかの解決策を検討。個別のパソコンがウィルスや、ウィルスメール、不具合などでトラブルを起こすこともあり、個別のパソコンにだけ情報を保存することによる情報喪失の危険を回避する必要性もでてきている。更に、個人情報保護法の求める要件を満たすために、パソコンの利用、情報の利用に際して、ユーザ名とパスワードを求め、秘密を守ることを可能にする必要性も高い。これらの解決を図るために、「JTA 情報共有サーバ」を設置し、運用している。

以上

テニスミュージアム委員会（委員長：小田 晶子）

事業区分：11

事業名：テニス史資料の収集・保存・活用、および展示・広報活動

事業内容：史資料所在情報を確認し、収集・保全に努めるとともに、内外で調査活動を行ってジャパンオープン等での展示を充実させた。また、将来の「JTA テニスミュージアム（仮称）」設立を目指し、「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」を創設し、趣意書を作成、募金活動を開始した。

1. 歴史的テニス資料の収集・保存、そして調査・公開

(1) テニス史資料の収集・整理とデータベース化

- ① JTA 地下倉庫、事務局収納棚、有明コロシアムなどに保管されている史資料の整理を継続した。
- ② トランクルームの年間契約を継続し、収集したラケットなど物品資料、フィルムなど画像資料、書籍など文献資料を保管した。
- ③ テニス専門誌バックナンバーの収集・整理を継続した。
- ④ JTA 年表、テニス関連文献資料などのデータベース化を継続した。
- ⑤ 史資料の所在情報を確認し、所有者を訪問して、貸し出しなどのご協力をお願いするとともに、寄贈・貸与を受けた。また貴重な古い16ミリフィルムのDVD化も行った。

(2) テニス史の調査と公開

- ① 「日本テニスはじめて物語」をテーマに調査し、資料を作成した。
- ② 有明クラブハウス内歴史展示コーナーに協力して陳列ケースを計4台設置し、展示を充実させた。
- ③ その他、各メディアからの問い合わせに対して調査・回答し、資料提供などの協力をした。

(3) テニス文化振興のための広報活動

- ① JTA 公式ホームページ内「テニスミュージアム」サイトで資料を公開した。

②絵はがき、小冊子などミュージアム・グッズの販売を継続した。

2. ジャパンオープンなどで歴史展示開催および各方面との協力

- (1) ジャパンオープン 2009 大会期間中に歴史展示として、企画展「日本テニスはじめて物語ー1」特別展「車椅子テニス「国枝慎吾」のDVD放映と優勝カップの展示」「ラケットの展示」等を開催した。
- (4) ウィンブルドン・オールカマーズ準優勝カップ、ウィンブルドン女子ダブルス優勝カップ、全米男子ダブルス優勝カップ、車椅子テニス国別対抗優勝カップなどの主な展示品に損害保険をかけて事故に備えた。
- (5) ジャパンオープン 2009 大会プログラムに寄稿して、特別展資料とすることができた。
- (6) 展示会場を東口ロビーに移動した事により、今まで以上に入場者の層を広げることができた。

3. 「JTA テニスミュージアム（仮称）」設立に向けた基金の創設

- (1) 「宮城黎子記念・JTA テニスミュージアム基金」として趣意書（要綱）を製作し、募金活動をスタートさせた。
- (2) 個人、団体等、全国から多数の方々にご賛同をいただき、今年度約 650 万円の募金となった。
- (3) 基金として平成 20 年度分も含め約 1364 万円を積み立てることができた。
- (4) 4 月 1 日を創刊日とする基金の会計報告を兼ねたニューズレター「テニス・ミュージアム」第 1 号の発刊準備を進めた。

以上

強化本部（本部長：福井 烈）

ナショナルチーム（ゼネラルマネージャー：竹内 映二）

事業区分：5

事業名：ナショナル代表チーム (Team Japan) の遠征

事業内容：1. JOC 関連

- (1) オリンピック（今年度開催なし）
- (2) アジア大会（今年度開催なし）
- (3) 東アジア大会
日程：12 月 6 日（日）～10 日（木） 場所：香港
監督：竹内 映二 コーチ：村上 武資・増田 健太郎
選手：伊藤 竜馬／杉田 祐一／守屋 宏紀／近藤 大生
瀬間 友里加／土居 美咲／不田 涼子
・男子シングルス：杉田…金メダル、伊藤…銀メダル
・男子ダブルス：近藤・伊藤…銅メダル、杉田・守屋…2R（ベスト 8）
・女子シングルス：土居…銅メダル、瀬間…3R（ベスト 8）
・女子ダブルス：瀬間・不田…2R（ベスト 8）
・混合ダブルス：近藤・不田…2R（ベスト 8）、守屋・土居…2R（ベスト 8）
- (4) ユニバーシアード
日程：7 月 3 日（金）～11 日（土） 場所：セルビア・ベオグラード
監督：右近 憲三 コーチ：宮地 弘太郎・細木 祐子

- トレーナー：茂木 奈津子 総務：野本 真佑子（全日学連）
 選手：会田 翔／奥 大賢／吉備 雄也／佐藤 文平
 青山 修子／井上 明里／小城 千菜美／宮村 美紀
 ・男子シングルス：吉備…3R、奥…2R・コンソレベスト 8、
 佐藤…コンソレベスト 4
 ・男子ダブルス：会田・吉備…1R
 ・女子シングルス：青山…1R、井上…1R・コンソレ優勝、
 小城…コンソレベスト 8
 ・女子ダブルス：青山・宮村…銅メダル
 ・混合ダブルス：会田・宮村…ベスト 8

2. デ杯関連（A 代表）

(1) デ杯 A0 ゾーン グループ I 3R

日程：5月8日～10日 会場：ウズベキスタン・ナマンガン
 監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎 ドクター：奥平 修三
 トレーナー：中尾 公一 ストリンガー：富岡 信人
 マネージャー：田島 孝彦
 選手：伊藤 竜馬／杉田 祐一／岩淵 聡／鈴木 貴男
 ※2勝3敗で敗退

(2) デ杯 ワールドグループ プレーオフ（今年度出場できず）

(3) 2010 デ杯 A0 ゾーン グループ I 1R

日程：3月5日～7日 会場：なみはやドームサブアリーナ
 監督：竹内 映二 コーチ：増田 健太郎 ドクター：奥平 修三
 トレーナー：中尾 公一 ストリンガー：富岡 信人
 情報戦略：池田 亮 マネージャー：田島 孝彦
 選手：伊藤 竜馬／添田 豪／鈴木 貴男／松井 俊英
 ※5勝0敗で勝利

3. フェド杯関連（A 代表）

(1) フェド杯 ワールドグループ II プレーオフ

日程：4月25日～26日 会場：ポーランド・グディニャ
 監督：村上 武資 ヒッティング：寺地 貴弘
 ドクター：金森 章浩 トレーナー：茂木 奈津子
 ストリンガー：富岡 信人 マネージャー：田島 孝彦
 選手：杉山 愛／森田 あゆみ／藤原 里華／森上 亜希子
 ※2勝3敗で敗退

(2) 2010 フェド杯 A0 ゾーン グループ I

日程：2月3日～6日 会場：マレーシア・クアラルンプール
 監督：村上 武資 コーチ：谷澤 英彦 ヒッティング：茶園 鉄也
 トレーナー：村木 良博／茂木 奈津子 ドクター：三谷 玄弥
 ストリンガー：富岡 信人 情報戦略：池田 亮
 マネージャー：田島 孝彦
 選手：クルム伊達 公子／森田 あゆみ／藤原 里華／瀬間 友里加
 ※ラウンドロビンではインドネシア、ニュージーランド、韓国にいずれも 3勝
 0敗で勝利して1位通過、プレーオフでは中華台北に2勝1敗で勝利
 ワールドグループ II プレーオフは4月24・25日、スロベニアとアウエーで対
 戦予定

4. U18 関連

(1) ジュニアグランドスラム

・全仏オープンジュニア遠征
 日程：5月12日～6月6日 コーチ：加藤 純
 選手：江原 弘泰／大前 綾希子

- 結果：50th Trofeo Bonfiglio (5/18~24、イタリア GA)
 江原…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 4 (w/関口)
 大前…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/Ysidora(INA))
 Astrid Bowl Charleroi (5/25~30、ベルギー-G1)
 江原…シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/関口)
 大前…シングルス 2R
 Roland Garros Junior Championships (5/31~6/7、フランス GA)
 江原…シングルス 1R、ダブルスベスト 8 (w/関口)
 大前…シングルス予選 1R、ダブルス 1R (w/大前)
- ・ウィンブルドンジュニア遠征 (大前はトヨタジュニア遠征扱い)
 日程：6月16日~7月7日 コーチ：駒田 政史
 選手：江原 弘泰/関口 周一/大前 綾希子
 結果：Aegon International (6/21~26、英国 G1)
 関口…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/江原)
 江原…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/関口)
 大前…シングルス 2R
 The Junior Championships, Wimbledon (6/27~7/5、英国 GA)
 関口…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/江原)
 江原…シングルス 3R、ダブルス 1R (w/関口)
 大前…シングルス 3R、ダブルス 2R (w/牟田口)
 - ・全米オープンジュニア遠征
 日程：8月27日~9月14日 コーチ：加藤 純
 選手：江原 弘泰/内山 靖崇/井上 雅
 結果：Canadian Open Junior Championships (8/30~9/5、カナダ G1)
 江原…シングルス 3R
 内山…シングルス 1R
 井上…シングルス優勝、ダブルス 2R (w/Babos(HUN))
 US Open Junior Championships (9/6~13、米国 GA)
 江原…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/関口)
 内山…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/Gaio(ITA))
 井上…シングルス 1R、ダブルスベスト 8 (w/尾崎)
 - ・全豪オープンジュニア遠征
 日程：1月12日~31日 コーチ：駒田 政史/加藤 久 (S級)
 選手：内山 靖崇
 石津 幸恵/大前 綾希子/牟田口 恵美/尾崎 里紗
 結果：Loy Yang Power Traralgon International (豪州 G1)
 内山：シングルス 3R、ダブルスベスト 4 (w/HUANG(TPE))
 石津：シングルス準優勝、ダブルスベスト 8 (w/CUROVIC(CRO))
 大前：シングルス 1R、ダブルス 1R (w/牟田口)
 牟田口：シングルス 1R、ダブルス 1R (w/大前)
 尾崎：シングルス 2R、ダブルス 2R (w/PRESTON(NZL))
 Australian Open Junior Championships (豪州 GA)
 内山：シングルス 1R、ダブルスベスト 4 (w/HUANG(TPE))
 石津：シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/CUROVIC(CRO))
 大前：シングルス 2R、ダブルス 1R (w/牟田口)
 牟田口：シングルス 1R、ダブルス 1R (w/大前)
 尾崎：シングルス 3R、ダブルス 1R (w/HONG(KOR))
- (2)アジア春季遠征
- ・U18 アジア遠征
 日程：3月5日~29日 コーチ：駒田 政史
 選手：牟田口 恵美/加藤 未唯/小和瀬 望帆

結果：ITF/LTAT Junior Championships (タイ G1)

牟田口…シングルスベスト 8、

ダブルスベスト 4 (w/YSIDORA(INA))

加藤…シングルス 1R、ダブルス 1R (w/小和瀬)

小和瀬…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/加藤)

15th Sarawak Chief Minister's Cup (マレーシア G1)

牟田口…シングルスベスト 4、

ダブルスベスト 8 (w/YSIDORA(INA))

加藤…シングルス 1R、ダブルスベスト 4 (w/小和瀬)

小和瀬…シングルス 2R、ダブルスベスト 4 (w/加藤)

21st Mitsubishi-Lancer Int' 1 Jrs Champs (フィリピン G1)

牟田口…シングルス 2R、ダブルスベスト 4 (w/GARCIA(FRA))

加藤…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/小和瀬)

小和瀬…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/加藤)

(3) アジア秋季遠征

・U18 タイ・韓国遠征 (喜多・尾崎はトヨタジュニア遠征扱い)

日程：10月23日～11月9日 コーチ：谷澤 英彦/岩本 功

選手：内山 靖崇/喜多 元明/井上 雅/牟田口 恵美

大前 綾希子/尾崎 里紗/伊藤 夕季 (2週目のみ)

結果：LTAT Junior Championships (タイ G2)

内山…シングルス準優勝、ダブルスベスト 8 (w/関口)

喜多…シングルス予選決勝

井上…シングルスベスト 4、ダブルス準優勝 (w/尾崎)

牟田口…シングルス 1R、ダブルスベスト 4 (w/大前)

大前…シングルス 2R、ダブルスベスト 4 (w/牟田口)

尾崎…シングルス 2R、ダブルス準優勝 (w/井上)

Asian/Oceania Closed Championships (韓国 GB1)

内山…シングルス準優勝、ダブルス準優勝 (w/関口)

喜多…シングルス 1R、ダブルス 2R (w/McLachlan(NZL))

井上…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/尾崎)

牟田口…シングルス 3R、ダブルスベスト 4 (w/大前)

大前…シングルス準優勝、ダブルスベスト 4 (w/牟田口)

尾崎…シングルス 1R、ダブルス優勝 (w/井上)

伊藤…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/奥野)

(4) インド B1 遠征 (今年度実施なし)

5. U16 関連

(1) Jr デ杯アジア予選

日程：4月12日～22日

監督：谷澤 英彦 選手：喜多 元明/蜂谷 翔希/栗林 聡真

結果：Junior Davis Cup by BNP Paribas Asia/Oceania Final Qualifying

(オーストラリア)

※ラウンドロビンでパキスタン・中華台北に勝利しオーストラリアに敗退、準々決勝はウズベキスタンに敗退し、順位決定戦でニュージーランド・タイに勝利し、15ヶ国中5位

(2) Jr フェド杯アジア予選

日程：4月12日～22日

監督：駒田 政史 選手：牟田口 恵美/大前 綾希子/尾崎 里紗

結果：Junior Fed Cup by BNP Paribas Asia/Oceania Final Qualifying

(オーストラリア)

※ラウンドロビンで香港・マレーシア・韓国に勝利、準々決勝でフィリピン、準決勝で中国、決勝でオーストラリアに勝利し、16ヶ国中1位

(3) Jr デ杯・フェド杯世界大会 (Jr フェド杯のみ)

日程：9月26日～10月6日

監督：駒田 政史 選手：牟田口 恵美／大前 綾希子／尾崎 里紗

結果：Junior Fed Cup Final (メキシコ)

※16か国中4位

(4) トヨタ Jr 遠征

・ウィンブルドンジュニア遠征 (上述、大前のみ)

・U18 タイ・韓国遠征 (上述、喜多・尾崎のみ)

・U18 フィリピン遠征 (蜂谷・守谷・伊藤・足立がトヨタジュニア遠征)

日程：11月19日～12月6日

コーチ：櫻井 準人／渡辺 大輔 (S級エリートコーチ)

選手：喜多 元明／内田 海智／蜂谷 翔希／守谷 総一郎

斉藤 貴史／西岡 良仁／伊藤 夕季／足立 真美

結果：PHINMA INT' L. JRS Week 1 (フィリピン G4)

喜多…シングルス 2R、ダブルスベスト 4

(w/Kadchapanan (THA))

内田…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/守谷)

蜂谷…シングルスベスト 8、ダブルス 1R (w/河内)

守谷…シングルスベスト 8、ダブルス優勝 (w/内田)

斉藤…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/西岡)

西岡…シングルス準優勝、ダブルス 1R (w/斉藤)

伊藤…シングルスベスト 4、ダブルスベスト 4 (w/足立)

足立…シングルス 1R、ダブルスベスト 4 (w/伊藤)

PHINMA INT' L. JRS Week 2 (フィリピン G4)

喜多…シングルス 2R、ダブルスベスト 8 (w/Tao (CHN))

内田…シングルスベスト 4、ダブルス 1R (w/守谷)

蜂谷…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/Lee (MAR))

守谷…シングルスベスト 8、ダブルス 1R (w/内田)

斉藤…シングルス 2R、ダブルス 1R (w/西岡)

西岡…シングルスベスト 8、ダブルス 1R (w/斉藤)

伊藤…シングルスベスト 4、ダブルス準優勝 (w/足立)

足立…シングルス 1R、ダブルス準優勝 (w/伊藤)

・U16 アジア遠征 (綿貫のみトヨタジュニア遠征扱い)

日程：2月25日～3月15日

コーチ：岩本 功

選手：守谷 総一郎／河内 一真／西岡 良仁／斉藤 貴史／

綿貫 敬介

結果：Malacca ITF International Junior Championship

(マレーシア G4)

守谷…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/河内)

河内…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/守谷)

西岡…シングルス準優勝、ダブルスベスト 8 (w/斉藤)

斉藤…シングルスベスト 8、ダブルスベスト 8 (w/西岡)

綿貫…シングルスベスト 8

41st Brunei ITF Junior Circuit (ブルネイ G4)

守谷…シングルスベスト 4、ダブルス優勝 (w/河内)

河内…シングルス準優勝、ダブルス優勝 (w/守谷)

西岡…シングルスベスト 4

斉藤…シングルスベスト 8、ダブルス準優勝 (w/綿貫)

綿貫…シングルス優勝、ダブルス準優勝 (w/斉藤)

(5) 南米遠征

日程：2月8日～3月23日（事前合宿期間を含む）

コーチ：加藤 純／加藤 久（S級コーチ）

選手：内山 靖崇／内田 海智／大前 綾希子／尾崎 里紗

結果：Argentina Cup（アルゼンチン G2）

内山…シングルスベスト4、ダブルス準優勝（w／内田）

内田…シングルス3R、ダブルス準優勝（w／内山）

大前…シングルス2R

尾崎…シングルス2R、ダブルス2R（w／Paliivets(CAN)）

30th Asuncion Bowl（パラグアイ G1）

内山…シングルス4R、ダブルスベスト4（w／Olivo(ARG)）

内田…シングルス2R、ダブルス2R（w／Chung(KOR)）

大前…シングルス1R

尾崎…足首のケガのため不出場

Banana Bowl（ブラジル G1）

内山…シングルス2R

内田…シングルス1R

大前…シングルス3R、ダブルス1R（w／尾崎）

尾崎…シングルス3R、ダブルス1R（w／大前）

Copa Gerdau（ブラジル GA）

内山…シングルス3R、ダブルス1R（w／Olivo(ARG)）

内田…シングルス予選3R

大前…シングルス2R、ダブルス1R（w／尾崎）

尾崎…シングルス1R、ダブルス1R（w／大前）

6. U14 関連

(1) ワールド Jr Boys アジア予選

日程：4月30日～5月12日

監督：櫻井 準人 選手：西岡 良仁／沼尻 啓介／中川 直樹

結果：World Junior Tennis Competition For Boys 2009（マレーシア）

※ラウンドロビンでニュージーランド・マレーシア・ウズベキスタンに勝利、準々決勝では中国に勝利して準決勝では中華台北に敗北、3位決定戦でウズベキスタンに勝利し、16か国中3位

(2) ワールド Jr Girls アジア予選

日程：5月6日～17日（事前合宿期間を含む）

監督：井本 善友 選手：小和瀬 望帆／足立 真美／奥野 彩加

結果：World Junior Tennis Competition For Girls 2009（マレーシア）

※ラウンドロビンで中華台北・香港・オーストラリアに勝利、準々決勝ではインドネシアに勝利し、準決勝ではオーストラリアに勝利、決勝では中国に敗れ、16か国中準優勝

(3) ヤングスター遠征

日程：7月2日～8月10日

コーチ：櫻井 準人／井本 善友

選手：西岡 良仁／斉藤 貴史／沼尻 啓介

小和瀬 望帆／足立 真美／奥野 彩加

結果：（前月の続き）

BNP Paribas Cup - Stade Français - Paris（7/6～12、フランス）

西岡…シングルス3R、ダブルス準優勝（w／沼尻）

斉藤…シングルスベスト4、ダブルス2R（w／Biro(HUN)）

沼尻…シングルス2R、ダブルス準優勝（w／西岡）

小和瀬…シングルス3R、ダブルスベスト8（w／奥野）

足立…シングルス2R、ダブルス1R（w／Rubel(BLR)）

奥野…シングルスベスト8、ダブルスベスト8（w／小和瀬） Windmill Cup

Carl Gantois (7/13~19、オランダ)

西岡…シングルス準優勝、ダブルス 2R (w/沼尻)

斉藤…シングルス優勝、ダブルス 1R (w/Ismailov(UZB))

沼尻…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/西岡)

小和瀬…シングルスベスト 8、ダブルス 1R (w/足立)

足立…シングルス 3R、ダブルス 1R (w/小和瀬)

奥野…シングルス 3R

Le 13/14 des Hauts-de-Seine (7/20~25、フランス)

西岡…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/斉藤)

斉藤…シングルスベスト 8、ダブルス優勝 (w/西岡)

沼尻…シングルス 2R、ダブルス 2R (w/Kokkinakis(豪))

小和瀬…シングルス優勝、ダブルス優勝 (w/奥野)

足立…シングルスベスト 8、ダブルス 2R (w/Barty(豪))

奥野…シングルス 3R、ダブルス優勝 (w/小和瀬)

調整合宿 (7/27~29、イタリア・サンレモ)

(4) ワールド Jr 世界大会 (アジア予選に勝った場合)

※男子：ラウンドロビンでオランダに敗れ、ウクライナ・チリに勝利、準決勝では米国に敗れ、3位決定戦でロシアに勝利し 16ヶ国中 3位

女子：ラウンドロビンでイスラエル・アルゼンチン・メキシコに勝利、準決勝ではスペインに敗れ、3位決定戦でチェコに勝利し 16ヶ国中 3位

(5) ATF 遠征 (韓国・インドネシア)

・U14 韓国遠征

日程：9月25日~10月2日

監督：櫻井 準人 選手：大西 賢/恒松 拓未

結果：2009 Seogwipo Asian 14U Series - Week1 (9/28~10/2)

大西…シングルス優勝、ダブルス準優勝 (w/恒松)

恒松…シングルス 3位、ダブルス準優勝 (w/大西)

(6) その他

・U14 冬季ヨーロッパ遠征

日程：1月14日~31日

コーチ：櫻井 準人 選手：大西 賢/恒松 拓未

結果：AEGON Junior International Bolton (イギリス Category 1)

大西：シングルス 1R・コンソレベスト 4、ダブルス 1R

(w/恒松)

恒松：シングルス 1R・コンソレ 2R、ダブルス 1R (w/大西)

Les Petits As (フランス Category 1)

大西：シングルス 1R・コンソレ優勝、ダブルス 3R (w/恒松)

恒松：シングルス 3R、ダブルス 3R (w/大西)

・U14 カナダ遠征

日程：1月28日~2月5日 コーチ：岩本 功 選手：高橋 悠介

※ボブ・ブレット氏の斡旋により「All Canada U-12 Junior Military Camp」に参加

事業区分：5

事業名：国際総合競技大会 (JOC 関連事業) サポート体制の強化

事業内容：各種国際総合競技大会、とりわけ 2012 年開催のロンドンオリンピック、および 2016 年に開催される次期オリンピックに向けたサポート体制を強化する。

JOC 主催のロンドン視察に竹内 GM・田島マネージャーを派遣。五輪関連施設を視察し、来年度以降の活用について JOC と調整中である。

事業区分：5

事業名：ナショナル代表チーム・ナショナル代表候補およびナショナルメンバーのキャンプ

事業内容：代表の遠征に祭し、事前合宿を行う。また合宿においてはオンコートでの練習や体カトレーニングのみならず、選手の教育プログラムを積極的に推進する。

デ杯・フェド杯、ユニバーシアード、ジュニア各年代で合宿を実施した。デ杯・フェド杯の国内合宿では、ロンドン五輪・リオ五輪を視野に入れ、若手選手も参加させた。また、オンコートだけでなく教育プログラムも実施した（栄養・バイオメカニクス・ピリオダイゼーション等）。

事業区分：5

事業名：国内外遠征へのサポートスタッフ派遣

事業内容：ナショナルチーム選出選手および候補選手に対して、国内での活動をサポートするためにスタッフを派遣する。サポート活動に関してはナショナルチームスタッフだけでなくS級エリートコーチライセンス保持者を活用し幅広いサポートを目指す。

S級エリートコーチには、ユニバーシアードチームの試合情報収集、地域合同合宿、U16 南米遠征、デ杯合宿等で協力を仰いだ。

事業区分：5

事業名：選手教育を主眼においた各種大会における教育プログラム活動

事業内容：1. ジュニア大会や合宿、セミナーを実施する際、運営サイドと協力し、各種の教育プログラムを行う。

2. ジュニア憲章を広める。

3. ジュニアのためのルールブック（審判委員会）を広く活用。

全国選抜ジュニア、U-15 全国選抜ジュニアでは、試合だけではなく教育プログラムとして、大会運営側と協力してジュニア選手に必要な情報を発信している。また、すべての主催ジュニア大会プログラムにはジュニア憲章を掲載し、啓蒙を行っている。今後はルールも含めた試合の取り組み方、マナーやアンチドーピング等の講習も行いたい。

事業区分：5

事業名：テクニカルスポーツサイエンスサポートスタッフの活用

事業内容：1. ナショナル代表選手および候補選手の戦術分析及びスポーツ医科学サポート

2. ジュニア強化選手を対象とした体力・メンタル・コンディショニングに関する研究（toto 助成金対象事業申請）

3. ジュニア選手およびユニバーシアード選手を対象とした戦術・ゲーム分析 に関する調査研究（toto 助成金対象事業申請）

4. 才能ある選手の発掘および育成（低年齢プレーヤーの運動能力開発と基礎技術の向上、ゴールデンエイジの原理原則に基づいたトレーニング指導及び基礎技術の徹底指導）

5. ジュニアテニス選手のコンディショニングに関する講習会（toto 助成金対象事業申請）

6. 地域ジュニア選手のスポーツ医科学サポート（情報の共有）（ヨネックス財団助成金申請予定）

7. 最新情報を提供する各種マルチメディア情報の出版

事業区分：5

事業名：全国各地のコーチとのネットワーク構築

事業内容：9 地域、都道府県のコーチとの連携を推進するため情報の提供し、積極的な交流を図る。

ナショナルメソッド地域伝達講習会で各地域や都府県担当コーチと情報を交換し、共通理解を得ることを狙った。

事業区分：5

事業名：ジュニア大会を取り巻く環境の改善

事業内容：ジュニア大会及び大会スケジュールの見直しの動きに対して積極的に協力する。

トーナメントのスケジュールやコートサーフェス、試合方法（3セットマッチの実施など）等の課題点をジュニア委員会とも協議している。

事業区分：5

事業名：ATF諸国との連携によるアジアテニスの振興

事業内容：ATFならびにITFとの連携をより速やかに行い、情報収集につとめる。特に、ジュニア大会への積極的アプローチ、また日本において開催される大会の誘致等、新しい提案をしていくことでアジアテニスに貢献していく。

ATFカンファレンスへ櫻井監督を派遣し、各国との情報交換を行った。

事業区分：5

事業名：ワンコイン制度の積極的推進

事業内容：ワンコイン制度の還元事業（9地域における合宿の開催）を実行し、ワンコイン制度の意義を理解してもらうための活動を積極的に行う。

ナショナルメソッド地域伝達講習会の実施の他、地域合同合宿を実施した。

事業区分：5

事業名：ナショナルチームをサポートするスポンサーの獲得

事業内容：ナショナルチームの強化活動の方向性に対して理解を示し、その方向性を共有する資金的パートナーを探し獲得する。

獲得には至っていないが、継続して獲得を目指す。

事業区分：5

事業名：ナショナルチームスタッフとS級コーチの資質向上プログラムの推進

事業内容：ナショナルチームスタッフとS級コーチ資格保持者の資質を向上させ、将来の日本のテニスに貢献する情報を収集し、国内に対して情報を発信する。

デ杯やユニバーシアード合宿においてナショナルチームスタッフのサポートや指導方法を身近に見てもらい、学習する機会を与えた。

以上

テクニカル・サイエンスサポート（委員長：梅林 薫）

事業区分：5

事業名：テクニカルスポーツサイエンスサポートスタッフの活用

事業内容：①ナショナル代表選手および候補選手の戦術分析及びスポーツ医科学サポート

ナショナル代表選手および候補選手に対して JISS(国立スポーツ科学センター)と NTC を中心にスポーツ医科学的サポートを行った。デ杯、フェド杯候補選手については、合宿時にメディカルチェックと故障、障害の診断、積極的治療を行った。(フェド杯代表選手対象：平成21年4月12日、13日の2日間、平成22年1月25日、デ杯代

表選手対象：平成 22 年 2 月 21 日、22 日の 2 日間）また、メディカルについては、デ杯、フェド杯の試合におけるサポートをも積極的に行った。

②ジュニア強化選手を対象とした体力・メンタル・コンディショニングに関する研究（toto 助成金対象事業）

16 歳以下のジュニア選手やユニバーシアド候補選手に対して専門的体力測定およびトレーニングプログラムの作成とその指導を行った。（測定回数：U-13 男子 1 回、U14 男子 2 回、U14 女子 3 回、U15 男子 2 回、U16 男子 1 回、U16 女子 1 回、ユニバー男女 1 回、インカレ選手男女 2 回、地域代表ジュニア 1 回 計 13 回）テニス競技における測定とトレーニングをいっしょにした形のより実践的な研究およびトレーニング指導ができ、今後、このような『測定&トレーニング』の考え方を啓蒙していくことの重要性が示唆された。

③ジュニア選手およびユニバーシアド選手を対象とした戦術・ゲーム分析に関する調査研究（toto 助成金対象事業）

第 25 回ユニバーシアド競技大会（2009/ベオグラード）に向けてのゲーム・映像分析サポートおよびジュニア選手、ユニバ選手へ女子ダブルスに関する戦術的示唆を提言するための映像収集活動や分析を行った。戦術担当委員により、VTR カメラを用いて試合撮影を行い、監督・コーチに対して、得られた映像や分析データの即時フィードバックによる科学的サポートを行った。JISS の TSC サポートもあり、充実したサポートができた。また、女子ダブルスについては、世界のトップ選手の分析を中心に分析を行い、今後の日本人選手のダブルス強化に関する提言も行うことができた。今後は、分析データの情報公開、録画済メディアの管理の一元化などを積極的におこなっていきたいと考えている。

④ジュニアテニス選手のコンディショニングに関する講習会（toto 助成金対象事業）

ジュニアテニス選手の指導者を対象にスポーツ医科学セミナー（コンディショニングに関する内容）を開催した。2 回ほどのミーティングを行い、メディカル、アスレティックトレーニング、体力トレーニングの 3 分野の講習内容の確認を行った。中国地域（平成 21 年 12 月 12 日、鳥取県）、四国地域（平成 22 年 1 月 9 日、香川県）、関西地域（平成 22 年 2 月 6 日、大阪府）、東北地域（平成 22 年 2 月 21 日、岩手県）の 4 地域を中心に行い、指導者とのディスカッションを活発に行えた。

⑤ジュニア選手のタレント発掘に関する調査研究および研修会（ヨネックス財団助成金対象事業）

U15 全国選抜ジュニア選手権大会（中牟田杯）の教育プログラムにおいて、体力測定および練習・トレーニング環境の調査研究（アンケート形式）を行った。また、体力やコンディショニングおよびメンタルに関する講義もジュニアや指導者、保護者に向けて行い、意見交換も十分に行えた。16th ITF Worldwide Coaches Conference 2009 が平成 21 年 10 月 30 日～11 月 4 日の 6 日間スペインのバレンシアで開催され、ナショナルコーチの加藤氏が参加した。（TSS 委員長の梅林と小屋委員も参加）ジュニア指導に関する情報を収集し、また世界のトップレベルのコーチの意見交換も密に行い、有意義な会議であった。

⑥スポーツ科学・コーチングセミナーの開催（ナショナルコーチングワークショップの開催）

競技力向上をテーマとして、2010 年 1 月 5 日（火）、6 日（水）の 2 日間、ナショナルコーチングワークショップを開催した。130 名ほどの参加者があった。今回のテーマは「日本の強化を振り返る - 検証と今後 -」であり、ナショナル、高体連、中体連、大学との連携が図られ、充実した内容のワークショップであった。このワークシ

ョップを基盤として、今後の強化をさらに充実していく方向が示唆された。

⑦最新情報を提供する各種マルチメディア情報の出版（インフラ整備）

今年度新たに『日本テニス協会テクニカル・サイエンスサポート BLOG』として情報発信を開始できた。他の事業「海外文献翻訳」「施設調査」「報告書」など関連する事業と有機的に結びつけ、情報の提供をより充実させていく予定である。地域のインフラ整備についても、今後より積極的に充実化させていく方向である。

以上

NTC運営委員会（委員長：櫻井 準人）

1. 事業区分：10
 - (1) NTCの運営管理と効果的な施設活用
 - ① 屋内テニスコート稼働率 92%（4月6日現在暫定）
 - ② JISSとの連携（病院、リハビリ利用）、タレント発掘事業への協力
屋内レッドクレートコートを活用
2. 事業区分：5
 - (1) ナショナル代表選手遠征事前のキャンプ
 - ① フェドカップ合宿（4月13～17日）日本 2-3 ポーランド
 - ② デビスカップ2回戦事前合宿（4月27～30日）日本 2-3 ウズベキスタン
 - ③ ワールドジュニア男子アジア予選事前合宿（4月24～26日）3位
 - ④ ワールドジュニア女子アジア予選事前合宿 2位
 - ⑤ U14ヨーロッパ遠征&世界大会事前合宿 世界大会男子&女子3位
 - ⑥ フェドカップグループIアジア予選事前合宿 1月25～27日 1位
 - ⑦ 南米遠征事前合宿 2月8～12日
 - ⑧ デビスカップ1回戦事前合宿（2月22～27日）日本5-0 フィリピン
3. 事業区分：5
 - (1) ナショナルジュニア強化合宿 U14男子&女子 年間14回の合宿
 - (2) ユニバシアード強化合宿 1月7～8日
 - (3) 修造チャレンジトップジュニアキャンプ 3月9～12日
4. 事業区分：5
 - (1) 地域選手、指導者に対する合宿（ナショナルメソッド地域伝達合宿）
 - ① 九州 9月11～13日
 - ② 中国 9月19～21日
 - ③ 東北 9月25～27日
 - ④ 関西 10月3～4日
 - ⑤ 北信越 12月4～6日
 - ⑥ 東海 12月18～20日
 - ⑦ 関東 1月9～11日
 - ⑧ 四国 1月10～12日
 - ⑨ 北海道 1月14～17日
5. 事業区分：5
 - (1) NTCに集めた情報分析&発表
 - JTA ワークショップ 1月5～6日
 - JTA カンファレンス 3月13～14日
6. 事業区分：5
 - (1) ワンコイン制度 NTC地域合宿 北海道、東北、関東、中国、四国の参加
5月29～31日 12歳以下
7. 事業区分：5
 - (1) 指導者育成講習会

公認スポーツ指導者講師全国研修会 9月6～7日
 公認コーチ 12月7～9日、1月12～15日
 公認上級コーチ 12月15～19日
 公認教師 11月17～19日、1月19～21日
 上級指導員 1月9～11日

8. 事業区分：7

(ア) 国際テニス連盟への連携事業

ワールドコーチーズカンファレンス（スペイン）への参加 11月
 Play&Stayの普及協力 3月13～15日

以上

ジュニア委員会（委員長 井上喜代志）

事業区分：1

事業名：中学校、高等学校指導者及び選手に対する支援事業の策定

事業内容：高体連、中体連（中体連対策委員会）との実施可能な具体策を検討するに至らなかった。支援事業については、23年度の継続事業とした。
 日本中体連加盟推進運動の一環として、中体連対策委員会と連携し、各都道府県における実態調査を行った。

事業区分：1

事業名：全国プロジェクトが推進するブロックトレセン構想での推進策への協力

事業内容：各都道府県のトレセン事業担当者に対するトレセン事業に関する実態調査を実施。実情に応じたトレセン設置に向けて全国プロジェクトと連携して次年度も継続して支援推進する。
 担当者のメールネットワークは完成した。

事業区分：1

事業名：ナショナルトップコーチ派遣ブロックジュニア及び指導者講習会

事業内容：都道府県テニス協会の要請により、ナショナルチーム、普及本部と連携し、ナショナルチームと連携したエリア担当のトップコーチを派遣し、ジュニアを対象とした指導者講習会を開催した。

地域	場所	期間	対象	人数	テクニカル	S&C
北海道	帯広	3月13日～14日	U12 U14 男女	32人	小浦武志	植木五行
東北	岩手	2月13日～14日	小、中学生 男女	30人	土橋登志久	林本 悠
北信越	福井	5月8日～10日	小、中学生 男女	20名	横松 尚志	林本 悠
関東	栃木	7月10日～12日	中止		横松 尚志	植木五行
東海	静岡	11月22日～23日	小学生 男女	16名	神谷 勝則	中村寛孝
東海	岐阜	8月2日～4日	小、中学生 男女	32名	丸山 薫	植木五行
関西	大阪	5月16日～17日	小、中学生 男女	32名	横松 尚志	横山正吾
中国	山口	12月12日～13日	小中高 男女	32名	横松 尚志	植木五行
中国	島根	11月22日～23日	U11, U13 男女	16名	飯田 栄	植木五行
四国	徳島	11月21日～23日	U12, U14 男女	16名	横松 久志	横山正吾

事業区分：1

事業名：JTAホームページを利用した広報事業

事業内容：全国の指導者に対して、その指導理念と共にナショナルチームと派遣コーチ等とで共

同開発した指導プログラムを報告書として紹介した。J T Aと地域、都府県の指導者間とでゴールデンエイジ期における指導に関する相互理解を深めたい。

事業区分：5

事業名：ナショナルメソッド地域伝達講習会の統括業務

事業内容：人材とともにNTCの高度な情報を伝達し、一貫指導理念の下での日本全体の指導力を向上させる目的で実施。対象であるゴールデンエイジ期にある選手に焦点を合わせた育成プログラムをナショナルチームとしてプロジェクトを作り事前に準備した。今年度は「トータルコーディネーション」をテーマとして、「遊ぶ」「気づく」「学ぶ」をキーワードとして実施展開した。テニス偏重の「教える指導環境」から脱し、選手自ら学びとる「育つ」環境を設定するアイデアを発信した。

地域	場所	期間	対象	指導者	テクニカル	S & C
北海道	和寒町	1月14日～1月17日	U12 16名	27名	小浦武志	山本修嗣
東北	八戸市	9月25日～9月27日	U14 12名	20名	駒田政史	三栖英輝
北信越	富山市	12月4～12月6日	U12 12名	51名	駒田政史	林本 悠
関東	白子町	1月9日～1月11日	U12 32名	16名	櫻井準人	植木五行
東海	浜松市	12月18日～12月20日	U12 16名	9名	駒田政史	中村寛孝
関西	加西市	10月3日～10月4日	U12 30名	25名	小浦武志	横山正吾
中国	尾道市	9月19日～9月21日	U12 16名	13名	竹内瑛二	平岡珠美
四国	牟礼町	1月9日～1月11日	U12 16名	4名	駒田政史	堀田佳伸
九州	福岡市	9月11日～9月13日	U12 16名	18名	櫻井準人 池田 亮	山本修嗣

事業区分：5

事業名：選抜大会会場における教育プログラムの実施統括

事業内容：ナショナルチーム、教育部会と連携、指導者、参加選手に対する教育プログラムを実施した。

1. 中牟田杯教育プログラム
九州テニス協会と連携、S級エリートコーチの協力を得て合同研修事業として実施した。TTSの協力も仰いだ。
2. ダンロップ選抜ジュニア教育プログラム
TTCと連携し、櫻井準人コーチを派遣した。

事業区分：6

事業名：暫定ランキングの管理運用

事業内容：1. 国内ITFジュニア大会、ATF大会での参考資料や、自己負担によるITF大会のエンドースメント時（国内順位）に利用していたが、ITFのエントリー方法が変更されたことにより、これに伴う各種の対策を検討した。
2. JPINによるナショナルジュニアランキングが運用されるまでの期間、もう少し対象大会を増やすことでこの精度を高めることで、現行のジュニア大会規程による、シーディングやドント方式に代わって使えないか等検討した。このランキングシステムを「暫定ランキング」として、さらに運用範囲を広げることが出来ないか、次年度継続して検討することとした。

事業区分：6

事業名：ジュニア大会機構における環境整備

事業内容：1. ナショナルジュニアランキング（JPIN）のシステム構築の準備検討作業として以下の検討を行った。
ア）都道府県の活性化、ジュニアテニス人口の拡大、理想とするジュニア大会環境の構築に大きく貢献できるシステムであることを目的として推進するとした。
イ）各地域の対象大会に関すること、ランキング管理費に関することなどのマーカー

- ットリサーチを行った。
- ウ) ジュニアランキングシステムの対象大会とグレードの設定
JTA 主催全国大会及び地域テニス協会、都道府県テニス協会主催の各全国大会予選の他に新たに地域、都道府県主催のオープン大会（3セットマッチ）の設定とグレードの検討など行った。
- エ) 国内における育成環境の適正化
トップジュニアを対象とする3セットマッチの大会だけではなく、むしろ普及的要素が強い育成大会の充実も図り、これも対象大会の視野に入れるとした。
2. 現行ジュニア大会規程の見直し
ナショナルジュニアランキングシステムを有効に機能させるためには、参加枠の配分（ドント方式）やシード基準、エントリー方法などを含め、ジュニア大会規程を大幅に見直す必要があることから、次年度準備期間としてこの改定に取り組むこととした。
3. 総合評価による小学生の県別団体戦の実施について
小学生の県別団体戦について、都道府県の活性化やトレセン構想との連動、低年齢時での総合評価の有効性などについて意見が一致したが、全国大会を企画する前に、既に都道府県や地域単位で実施しているところもあり、ここで実験的な大会プログラムを試みるとした。テニスを競うだけではない、智徳体を含めた「総合評価プログラム」に関する TTS との情報交換も含め、検証を重ね、まずは地域、都道府県で広めるべきとし、将来の全国大会開催に備えることとした。

事業区分：11

事業名：会議の開催

事業内容：事業を推進するため委員会を開催した。

全国会議を、5月30日、11月1日の2回開催、常任委員会を8月19日、1回開催した。

以上

学生強化委員会（委員長：堀内 昌一）

事業名：大学生テニス大会を取り巻く環境の改善

事業内容：学生大会及び大会スケジュールの見直し。大会の配置や選抜方法について、国内外の広い視野から見直しを行う。大会を整備し、国際大会及び全日本テニス選手権等での活躍を目的として、高校及びジュニア期からの一貫性のある強化環境を作る。

- ・全日本学生テニス大会の実施時期の固定化（ユニバーシアード開催時期に起因）
- ・国民体育大会との連携
- ・各学生大会の簡素化、統一化

事業報告事項

大学王座時期の開催と使用コートの問題等を議論した。結果 全日本等での競技力向上を視野に全日本テニス選手権前開催とハードコート使用を原則とするを学生連盟との一致した意見としてまとめた。平成22年度は岐阜メモリアルセンターがハードコート化したことに伴い、岐阜で開催。全日本予選前に王座が開催されることになった。

また全日本テニス学生テニス選手権は他の大会との重複の回避ができなかったことから、8月初旬の開催ができなかった。

今後は4月より常任委員会を開催し、学生大会の整備を連盟と共同で改善につとめることとなった。

事業区分：5

事業名：実業団チームとの合同練習会

事業内容：実業団委員会と連携をし、強化と就職活動も含め相互理解をし、一貫性ある競技力向上をはかる。

事業報告 5

実業団チームとの合同練習会を行った

平成22年1月30日(土)・31日(日) 早稲田大学、亜細亜大学テニスコート

参加者 実業団 伊予銀行 JR北海道 明治安田生命 リコー 三菱電機 関東大学連盟所属
1部2部大学男女1年から3年を対象。

・実業団と学生の交流を図るため実業団上位チームと1・2年生を中心とする 関東地区学生有望選手の合同練習をおこなった。

以上

ワンコイン制度推進委員会（委員長：橋本 有史）

事業区分：11

事業名：ワンコイン制度の定着と発展

事業内容：ワンコイン制度の確実な運用を図るとともに、より広い大会への適用を行うことにより収入の増加を図りNTC活動の充実および都府県トレーニングセンターの構築に寄与することを目的に活動を行った。

1. ワンコイン制度の実施と確実な運営

ワンコイン制度も2年目に入り、着実な制度の運営とともに地域テニス協会や都府県テニス協会に働きかけ、より広い範囲での制度の適用による収入の増加を目指した。結果、20年度1447万1600円の収入に対し21年度1539万9970円と87万8100円の収入増となった。一方委員会経費は20年度に比べマイナス13万9496円の108万9519と抑えることが出来たため委員会収支としては、20年度に比べ101万7569円よくなっている。20年度が最終的な数字であるのに対し、21年度の数字は現時点のものでありさらに若干の収入増が見込まれる。なお、決算数字は締日の関係から上記数字とは一致しない。

2. ワンコイン制度への信頼の醸成

ワンコイン制度の確実な運用は信頼への第一歩であるが、加えて積極的な「情報公開」やPRによって、地域、都府県協会、大会主催者や参加者への信頼を得る必要がある。そのため委員会ではワンコイン制度の運営状況とそれらの資金が活用されるNTCの活動を「ワンコイン／NTC報告書」としてまとめ、全地域協会、都府県協会に配布するとともにJTAのホームページからもダウンロード出来る形にした。また、地域／都府県協会の要請により実際に会議等に出向いて上記報告書の説明を行った。

3. ワンコイン制度の発展

ワンコイン制度の対象の拡大により収入の増加を図るため、22年度から地域協会／都府県協会の全ての主催大会へのワンコイン制度の適用を目指し、地域／都府県協会への働き掛けを行った。多くの地域／都府県協会で理解が得られた一方、現段階で全ての主催大会での一律適用は難しいとの意見も少なからずあり、結果JTAとしては全ての地域／都府県主催大会への制度適用を要請するものの、最終的には主催者である地域／都府県テニス協会の判断に委ねることとした。

4. 今後の展開

今後ともワンコイン制度の確実な運営にあたり一方ワンコインNTC報告書等を通じての理解推進活動を行ってワンコイン収入の増加を図っていく。

以上

クラブJTA委員会（委員長：青木 弐）

事業区分：11

事業名：クラブJTA見直し及び新たな運営の企画

事業内容：ジュニア育成強化資金の募金制度であるクラブJTAの位置づけの再認識として「日本のテニスを愛するファンクラブ的な運営」への方向付けを行った。但し会員特典等で現会員の不信を招くような見直しは不相当でありこれらも十分に配慮を行った。
ファンクラブ的な運営の新規企画として
① 杉山愛さんの新しい門出をお祝いする会へ会員をご招待（2月26日）。
② 2010年東レPPOテニス入場券の先行購入の機会を会員へ確保。
を実施出来た。

事業区分：11

事業名：クラブJTAサポート大会の実施

事業内容：クラブJTAの活動をサポートするクラブJTAサポート募金（寄付金）大会を各地域・各都府県で開催することは残念ながら出来なかった。

事業区分：11

事業名：クラブJTA会員組織の拡大

事業内容：クラブJTA会員組織を広げる‘草の根運動’を実施。具体的には「楽天ジャパンオープン、ニック全日本テニス選手権大会、テニスの日、デ杯、杉山愛さんの新しい門出をお祝いする会などを活用して会員募集活動」を行い、新規会員数を52名獲得した。しかしながら退会される方々も多くおられ、一年を通しての会員増加数は5名に留まった。

以上

普及・指導本部（本部長：飯田 藍）

公認指導者養成委員会（委員長：松原 慶子）

事業区分：4

事業内容：公認指導者養成事業及び検定会の開催と指導者の質の向上を目的とした研修会の開催。
また、普及指導本部ホームページの充実を図る為の準備、指導者のネットワーク作りの構築を行う。

1. 公認指導者資格認定（コーチ・上級コーチ・教師・上級教師）に関する検定会

下記の通り、公認資格認定に関する養成講習会および検定会を実施した。

- ① コーチ
：前期 東京 NTC 2009年12月7～9日 参加者35名
：後期 東京 NTC 2010年1月12～15日 参加者49名
- ② 上級コーチ
：東京 NTC 2009年12月15～19日 参加者16名
- ③ 教師（専門学校）
：東京 NTC 2010年2月8～9日 参加者75名
- ④ 教師
：前期 東京 NTC 2009年11月17～19日 参加者12名
：後期 東京 NTC 2010年1月19～21日 参加者23名
- ⑤ 上級指導員
：東京 NTC 2010年1月9～11日 参加者40名
- ⑥ 指導員：北海道、宮城県、埼玉県、富山県、大阪府、奈良県、島根県、愛媛県の
8道府県で認定事業を行った。
- ⑦ 上級指導員：青森県、大阪府、愛媛県の3道府県で認定事業を行った。

2. S級エリートコーチレベルアップ研修会を下記の日程で実施した。

2009年9月6日 東京 NTC 参加者28名

3. 日本体育協会助成事業「公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会」を、2009年9月6日～7日に東京 NTC で、マスターコーチ、マスター教師、上級コーチ、上級教師、コーチを対象として開催した。参加者は52名であった。
4. 公認指導者を対象に、指導者のレベルアップのためのリフレッシュ研修会を、都道府県、地域主体で開催され公認する。
5. 第5回プロフェッショナル対象研修会を開催した。
2009年11月30日 岸記念体育館会議室
6. 普及・指導本部の情報提供や活動報告等ホームページの整備を図る。
7. 指導者のネットワーク作りの準備
(情報提供および活用法について、各地域代表委員に説明しご協力をお願いをした)
8. 会議への出席
「日本テニス連合分科会」に出席した
2009年8月25日、9月15日、11月10日、2010年1月26日、3月2日
9. 委員会開催
 - ① 認定校専門学校の担当者および担当教員との会議を行った。2010年2月8日
 - ② 常任委員会を2009年4月25日、7月11日に行った。
 - ③ 全国委員会を2010年3月12日に行った。
 - ④ 教育部会を2009年4月25日に、検定部会を10月10日に行った。

公認指導者養成委員会 教育部会 (部会長：藤田 聡)

事業区分：1

事業名：中学校・高等学校指導者に対する支援事業

事業内容：中学校・高等学校の現場での「指導方法」について、昨年編纂した「ドリル集」の活用やナショナルコーチの派遣も含め、学校現場での正しいテニスの普及と選手育成に活用を目的にしていたが、残念ながら目標には至っていないので引き続き支援事業とし検討することとした。

事業名：公認指導者を対象とした指導教本制作に関する事業

事業内容：

1. 段階における教育教本およびマニュアル制作として、普及と育成に活用するためのITF（国際テニス連盟）が薦める「プレー&スティ」教本を翻訳し、「プレー・テニス教本」として発行する。「コーチーズカンファレンス」および地域での講習会にてテキストとして活用。
2. 公認指導者養成講習会での専門科目の充実を図るため、講義内容等の検討については継続事業とし取り組むこととした。
3. S級エリートコーチプログラム作成については、次年度の開催に向けより内容の充実を図るため継続事業とし取り組むこととした。

その他、各教本作成は目標に至っていないが、対象者や内容についても他の委員会との連携をとり慎重に進めていく必要があり、継続事業として検討することとした。

事業区分：5

事業名：強化指導指針Ⅲの編纂事業

事業内容：今年度編纂事業を計画していたが、昨年からの継続事業としていたが進められていない。この点については、「強化指導指針Ⅲ」の役割はJTAとしての問題も大きく内容について慎重に進める必要性があり、他の委員会としっかり連携とり編纂することとした。

公認指導者養成委員会 検定部会 (部会長：井上直子)

事業内容：各公認指導者の検定基準および検定方法の見直し、そして検定員の養成と質の向上を図った。また、地域および都道府県で実施される養成講習会検定会での検定員の派遣を行った。

以上

普及推進委員会（委員長：中原 かおり）

国民に健康な生活と夢を与えることを目的に、幼児・こどもの体力向上を目的に「テニスの日」「キッズプログラム」「ITNシステム」の事業を通して、こどもからシニアまで幅広くテニスの普及を推進する。

事業区分：1

事業名：47都道府県テニス協会と他団体との協調と連携により、より多くのテニス愛好家を生み出す活動を行う

事業内容：1. テニスの日

本年度も47都道府県においてテニスの日が実施された。テニスの日推進協議会との連携により実施。キャッチフレーズは昨年と同様”テニス祭り“。

開催期日は9月23日を中心に前後1週間を基本としている。

普及推進地域代表委員が当該担当都道府県の視察を行い、テニスの日実行委員会に対し報告書の提出を行った。

共同イベントとして全国47都道府県協会を中心にそれぞれ独自の内容で開催。

2. コーチーズカンファレンスの開催

平成22年3月12日・13日味の素ナショナルトレーニングセンターにて開催。306名の参加。

第1日目 ITFより講師を招聘し、PLAY&STAYプログラム普及講習会を行った。

第2日目は「スポーツビジネス」の基調講演 NHK ディレクター、アナウンサーによる講演、プロ選手によるパネルディスカッション、フェド杯監督によるオンコートセッションが行われた。

キッズ部会 溝口 美貴

事業区分：1

事業名：キッズテニスプロジェクト普及活動

事業内容：事業内容：9月23日(水) テニスの日 有明イベント

B11番及びB12番コート。キッズクリニックを担当。

- ・参加者人数 171名
- ・テニス指導者 16名
- ・指導プロ選手 2名（重川・溝口）

事業区分：1

事業名：マナーキッズテニス普及活動

- 1) テニス教室開催
64回開催
参加者5,107名

- 2) マナーキッズ大使の海外派遣事業、マナーキッズテニス全国小学生大会は
新型インフルエンザ流行の影響で中止

ハンディキャップテニス部会 (ICN) 小泉 弘子

(1)9月23日「テニスの日 車いすテニス講習会」10:00~15:00

(参加者18名)(担当コーチ 安宅)(スタッフ 岡村、小泉、山倉他5名)

- ・参加者集め

- ・ボランティアスタッフ集め・・・アシスタントコーチ1名、運営4名
- ・当日の運営、安全管理、ボール拾い、用具や看板の搬送、お弁当配布、写真撮影等

☆ 前回までは「ジュニアの初心者のみ」を対象とした講習会で、参加者が集まらなかった。今年度は「車いすテニス愛好家全般」の親睦の場として位置づけた。

安宅コーチの熱心な指導、松岡、岩淵両プロの魅了あるプレーのお陰で「テニス祭り」という名に相応しい1日になったと思う。

(2)7月26日「第9回視覚ハンディキャップテニス茨城オープン」視察

於：ひたちなか市（日製健康組合勝田第2体育館）

(3)12月11～13日「第19回NEC全日本選抜車いすテニス選手権大会」視察

於：柏市（吉田記念テニス研修センター）

(1)各活動団体との連携を計る

(2)全国都道府県の活動実態調査を行う

(3)情報交換の窓口となる

(4)「テニスの日」「全日本選手権最終日」などに、各団体と連携して「車いすテニス」「視覚ハンディキャップテニス」の「デモンストレーション」及び「初心者講習会」を開催する。

(5)1年目は市場調査期間とし、2年目から活動を開始する。

ITN 部会 塚本 新治

事業名：ITN システム部会の普及活動・ITN の国内ネットワーク構築のための環境整備

事業内容：

- 1) 平成21年9月23日（水）テニスの日、ITN 国際テニス査定実施。午前2回、午後2回の査定に58名参加。岩淵プロのデモンストレーションが行われ、ITN3。松岡修造プロの2回の巡回サービスが行われ、ITN 査定で一番得点の高いサービスの指導をしてもらい、参加者は、大満足。
- 2) 平成21年11月5日（木）ソニー生命カップ第31回全国レディース大会会場（昭和の森TC）にて国際テニス査定実施。参加者、女子18名、男子6名。京都、千葉、東京、和歌山、青森からの代表者が参加。3年連続査定に参加した土屋章子さん（京都府）は ITN 2（311）、そして今回初挑戦の永尾成和さん（東京都、テニスユニバース）は、ITN2（345）をマークし、男女の日本記録を更新しました。
- 3) 平成21年11月14日（土）に予定された、第84回全日本テニス選手権大会（有明テニスの森）会場で予定された ITN 国際テニス査定は、雨のため、中止しました。
- 4) 平成21年8月29日（土）、30日（日）リゾート地における夏休みキッズ・テニススクールに参加した初心者の子供（5歳～12歳）を対称にし、スクールの最終日に ITN 国際テニス査定を実施。男子16名、女子4名が参加し、ITN9～ITN10.3が査定された。ITN10の下に設けられた ITN10.3、ITN10.2、ITN10.1が初心者の子供たちのテニスの動機付けできることが分かった。平成22年度も継続して行いたい。（北海道余市郡赤井川村、キロロ・リゾート）

以上

中体連対策委員会（委員長：飯田 藍）

事業区分：1

事業名：日本中体連加盟に関する促進事業

事業内容：1. 全国中学生団体戦の参加資格の設定による加盟促進運動

全国中学生テニス選手権大会団体戦の参加資格を加盟、準加盟、及び加盟運動を実施した都道府県とした加盟促進、移行策が功を奏し、地域中体連や都府県中体連

への加盟が大幅に促進された。具体的には、九州、四国では地域中体連に加盟する具体的な動きがあり、中国や関東地域でも同様の動きが起きている。また茨城、徳島は加盟の調整段階に入っており、他の多くの県でも、この措置により加盟への機運が高まっている。

2. 各都道府県の加盟実態と組織状況の基礎データ作成

全国中学校テニス連盟と連携し、全国の加盟状況、運動状況の実態と、各組織の代表者名及びネットワークの構築を完了した。

3. (財)日本中体連への加盟について

1 1月、スポーツマンクラブにおける三辻日本中体連専務理事と JTA との日本中体連加盟に関する面談時に、23年度の予定であった加盟競技見直しが、一年遅れ24年度になることが判明した。これを受けて、遅くなることの困惑を表明し、テニスは準備状況、取り組みが盛んであることから、加盟申請を前倒しで行いたい旨申し出をした。この結果、22年度末に日本中体連に対して加盟申請を提出することとした。この申請措置を有効に実現するため、22年度は、全国中テ連と連携し、(財)日本中体連に提出する全国の基礎資料(テニス競技人口、組織、大会実績等)を集め、ぬかりなく対応することとした。

4. 全国中学校テニス選手権大会への視察

8月熊本県で開催された標記大会を飯田委員長が視察。日本中体連加盟の重要なハードルの一つである全国大会の運営方式を現地で確認した。

5. 次年度開催地への表敬訪問

8月、次年度開催地である山口県宇部市の市役所を飯田委員長が訪問。中国テニス協会、山口県テニス協会、宇部市テニス協会、山口県中学校テニス連盟等関係者と共に庁舎にて宇部市長と面談し、開催にあたっての各種支援をお願いした。

6. 全中の大会日程について

中体連加盟を見込み、23年度の中体連で決定する全国大会、地域大会の日程は JTA では動かさないことをふまえ、地域ジュニア及び全日本ジュニアと日程が重複することへの改善を図るよう九州中テ連から要望があった。これを受けて JTA トーナメント委員会と連携し、次年度早急に中テ連と JTA とで調整会議を開催することとした。

以上

スポーツ環境委員会 (委員長：橋爪 功)

事業区分： 1

事業名： JOC スポーツ環境委員会、他の競技団体、テニス団体そして環境保全組織と連携し、テニス界を中心に自然環境保全と整備を目的とした活動 (3R 推進)

事業内容： 1. テニス界における自然環境保全の啓蒙・実践活動

(1) JTA 主催 14 大会をはじめコーチーズカンファレンス、修造チャレンジなどの講習会で環境横断幕、「チームマイナス 6%」のパナール JOC ポスターを掲出した。

(2) 「テニスの日」の共同イベントとして、各団体の協力のもとに 47 都道府県の会場で「クリーンアップ大作戦」を実施した。

(3) 松岡修造プロの協力による環境ポスターを 500 枚制作し、47 都道府県で約 250 枚、JTA 主催大会や公営コートで約 250 枚を掲出した。

2. JOC 主催の「スポーツ環境専門委員会」(5 回)、「スポーツと環境地域セミナー (福岡)」、「スポーツと環境地域セミナー」に担当者が出席し情報の共有と交流を深めた。

3. 47 都道府県テニス協会との連携を深めるために「テニスの日に関して」と「環境だより」を発信した。

4. NPO グローバルスポーツアライアンスとの協働を推進するために、JTA 主催 14 大会などでのエコフラッグの掲出、使用済みテニスボールのリユース活動での協力を進めた。
5. 上記の活動を円滑に進めるために、スポーツ環境委員会を 2 回（6 月、2 月）常任委員会を 2 回（6 月、2 月）開催した。

以上

アンチ・ドーピング委員会（委員長：岩噌 弘志）

事業区分：1 1

事業名：ドーピング検査の実施と協力

- 事業内容：1. 全日本テニス選手権大会において、12名（男・女各6名）の検査を実施した。（1月11・12日 有明）
2. 全日本ジュニアテニス選手権大会において、12名（男・女各6名）の検査を実施した。（8月13・14日 大阪）
3. 全日本学生テニス選手権大会に於いて、8名（男・女各4名）の検査を実施した。（8月8日 有明）
4. 日本リーグ（2ndステージ・決勝）に於いて、18名（男14名・女4名）の検査を実施した。（1月23日・2月20日 横浜・東京代々木）
5. ドーピング検査体制を維持充実するため、JADA（日本アンチドーピング機構）のメディカルオフィサー、テクニカル・オフィサー養成講習会に、委員を推薦した。また、認定後2年を経過した委員については、認定の更新手続きをした。

事業区分：1 1

事業名：アンチ・ドーピングの啓蒙

- 事業内容：1. 日本アンチ・ドーピング規程の受諾に伴い、その主な内容につき周知徹底を図った。
2. 新人プロ研修会にてアンチ・ドーピングの講習を実施いたしました。
3. 全日本ジュニア選手権大会において 日本アンチドーピング機構に依頼し会場に啓蒙ブースを設け選手・保護者・指導者に啓蒙活動を行った。（アウトリーチ）
4. 上記の事業を推進し最新情報周知の徹底を図るため、全体会議を年1回開催した。

事業区分：1 1

事業名：サプリメントに関する指導方針の策定と徹底

- 事業内容：新人プロ研修会において サプリメントの禁止薬物が含まれているかどうかの検索方法について説明し今後のサプリメント摂取のガイドラインを示した。

以上

トーナメント本部（本部長：内山 勝）

ジャパンオープン委員会（委員長：内山 勝）

事業区分：3

事業名：2009 楽天ジャパンオープンの開催

事業内容：2009 楽天ジャパンオープンの開催

今回 ATP500 に昇格し賞金も大幅に増額された 1 年目のジャパンオープンであったが、

2008年大会直後のリーマンショックで、これまでタイトルスポンサーであったAIGから降板という事態となり、厳しい局面を迎えた。今大会より、トーナメント・ディレクターに川廷尚弘氏に委ね、新規タイトルスポンサーには楽天株式会社を迎え、楽天ジャパンオープンテニスチャンピオンシップス2009が誕生した。

厳しい経済事情により、20%以上の大幅なコストダウンへの挑戦と、ATP500に相応しい世界のトップ・プレーヤーを招聘すべく、これまでの運営スキームを大幅に変更するという、これまでにない取り組みで、多数の関係者に戸惑いも見られたが、川廷尚弘氏のディレクションの元、準備を進めた。

同じ週にジャパンオープンより賞金倍額のATP500大会が北京で開催されることで、選手招聘には困難を極めたが、フェデラー、マレー、デルポトロ、ツォンガ、シモンという、世界トップ10のうちに5名の招聘に成功し、またモンフィス、ベルディハ、ハース、ヒューイットを獲得。WCに錦織圭を与え、ジャパンオープン史上、最もハイレベルなラインナップを揃えた。

しかし、大会直前に、フェデラー、マレー、錦織の欠場、第1シードのデルポトロが1回戦で敗戦するなど、大会に大きな打撃を受けた。今年から有明での東レパンパシフィックオープンと連続開催されることで、施設利用方法の問題、さらに、超大型の台風が東京に直撃し、お祭り広場の閉鎖、マーキーの撤収そして再建など、大会運営者としては、これ以上ない苦難が続いた。幸いにも、週末の2日間は絶好のテニス日和となり、超満員のお客様にお越しいただき、無事閉幕された。

経費面では、事業仕訳を徹底し、大幅な節約も達成するとともに、これまで出来なかった設備の向上や、選手・観客サービスに努めることができたことで、収益事業としても、予算以上の大きな成果を得ることができた。

1. 試合進行

(ア) 台風と悪天候で、NTC および当初予定していなかった SSC へも移動することとなった。交通手段の対策では大きな混乱を招かなかったが、NTC での無観客試合、SSC までの移動時間、審判やボールパーソンのご苦労も考えると、可能な限り移動させたくないと感じた。

2. 観客サービス

厳しい天候にも関わらず、有料観客数が 52,000 人を超える来場となった。

(ア) 前夜祭を ATP500 記念として、ATP サンデーを実施。PR が充分でなかったため、入場者数が少なかったことは、反省材料であり、次回の課題とした。

(イ) ATP Feel it キャンペーンに協力し、ATP500 シリーズのプロモーションのマーチャンダイズ企画を実行し、ATP からも評価を得、今後も継続発展させる。

3. スポンサーサービス

(ア) 出来る限りのスポンサーニーズに応える努力に努めたが、新たなスポンサー、新たなスキームでの運営、選手欠場、台風直撃など、充分に対応することが出来なかった問題が目立ってしまったことは、今回の大きな反省点であった。天災、欠場に関しては何も出来ないが、プロモーション企画、マーケティングについては、スポンサーニーズを確実に押さえながら、準備運営を進めることを最優先としたい。

4. テレビ放送

(ア) 今回も NHK の協力をいただき、ガオラでの平日放映と広範囲に TV 放送が実現出来た事は、遠方のテニスファンの期待に応じられたと確信する。

(イ) 来年度は、審判台の位置を反対側にすることで、TV のカメラ位置も反対に側になる予定。

5. 選手サービス

選手へのサービスについて、今後大会の更なる向上のためにも、種々改善が必要である。ラウンジの空間、コートの問題、I Dの発行、管理、送迎の方法について、選手から不満が出ないようにしたい。

総括

来年度も財政的にさらに困難な状況であるが、選手、スポンサー、観客のニーズを十分に配慮した運営スキームを構築してプロモーション活動し、10年後にトーナメントオブザイヤーとなるレベルの大会に向上させたいと考えます。

以上

トーナメント委員会 (委員長: 中西 伊知郎)

事業区分: 2

事業名: 国内大会の開催ならびに支援、J T A公式トーナメントの開催ならびに支援、2010年テニスカレンダーの日程調整、J T Aランキングシステムの拡充と検証、選手登録の拡充と管理

事業内容: 1. 国内大会の開催ならびに支援

- ◆ニック全日本テニス選手権大会 2009 (11月4日~15日)
- ◆島津全日本室内テニス選手権大会 (3月4日~14日)
- (2) 国内大会主催者への助言
 - ◆トーナメント報告書の充実をした。(地域選手権・JTT大会)
- (3) 2010年テニスカレンダーの日程調整
 - ◆ディレクター会議を中止し事務局内にて大会主催者と調整
- (4) 年間J T Aランキングの作成および発表
 - ◆2010年2月に発表
- (5) 選手登録者数の拡充と管理
 - ◆2009年登録者数は男子4084名、女子1997名
 - ◆JTA新登録システムを検討した。
- (6) 新設国内大会の調査、検討、公認
 - ◆新設大会20大会の公認
- (7) 他委員会との連携を密にしより良い計画、運営を図る。

事業区分: 3

事業名: 国際大会の開催並びに支援、国際大会のよりよい運営の検討

事業内容: 1. 日本テニス全体の向上を目指した国際大会の開催並びに支援

- (1) デビスカップ、フェドカップ 2009
 - ◆デビスカップ: 3月6日~8日 (大阪なみはやドーム)
- (2) ジャパンオープン 2009 (10月3日~11日)
- (3) 京都チャレンジャー 2009 (3月7日~3月15日)
- (4) ジャパンオープンジュニア 2009 (3月30日~4月5日)
- (5) 大阪市長杯ワールドスーパージュニア 2009 (10月18日~25日)
- (6) ジャパンウーマンズオープンテニス 2009 (10月10日~18日)
- (7) 各種公認大会の開催支援
 - ◆新規大会3大会の公認
- 2. 国際大会の公認および新規国際大会の開催準備
 - (1) 国際大会 2010年の検討および開催の公認
 - ◆ディレクター会議の開催 (11月11日)
 - (2) 国際大会 2009年の各大会視察と翌年の開催週の検討

◆2010年度開催週の検討（11月26日・29日）

(3)新設国際大会の調査、検討、公認

3. 国際大会のより良い運営の検討

(1)他委員会との連携を密にしより良い計画、運営を図る。

◆審判委員会・ドクター部会と連携

(2)国際大会開催、運営に関するマニュアルの更新

事業区分：5

事業名：ジュニア大会のより発展と活性化に協力

事業内容：全国で開催されるジュニア大会の発展および活性化に協力し、選手達の強化を支援する。

- ①トヨタジュニアテニストーナメント（4月8日～11日）
- ②全国選抜ジュニアテニス選手権大会（5月21日～24日）
- ③全国小学生テニス選手権大会（7月28日～30日）
- ④全日本ジュニアテニス選手権大会（8月5日～17日）
- ⑤全国中学生テニス選手権大会（8月18日～24日）
- ⑥U-13全国選抜ジュニアテニス大会（10月23日～25日）
- ⑦U-15全国選抜ジュニアテニス選手権大会（10月30日～11月3日）
- ⑧全日本ジュニア選抜室内テニス選手権大会（1月25日～27日）

事業区分：6

事業名：ジュニア大会に関する事項

事業内容：ジュニア大会運営等々の環境整備

- ①ジュニア大会スケジュールに関わる件
◆2011年度インターハイ開催時期変更に伴う日程検討
- ②ディレクター、レフェリーに関わる件
◆審判委員会、ジュニア委員会と検討し決定

以上

ドクター・トレーナー部会（部会長：別府 諸兄）

事業区分：11

事業名：ドクター・トレーナーの派遣

1) 国際大会・全国大会への派遣

「全国小学生選手権大会」（東京・相模園総合グラウンドテニスコート）「全日本ジュニア選手権」（大阪・靱）「世界スーパージュニア選手権」（大阪・靱）「全日本テニス選手権大会」（有明）「東レ PPO」（東京・千駄ヶ谷）「楽天ジャパンオープン」（有明）「全国レディース決勝大会」（昭島）全日本ベテラン選手権大会（名古屋・東山公園テニスセンター）等各大会へ、トーナメントドクターおよびトレーナーを派遣した。

後方支援病院としては、都内開催の大会については昭和大学附属豊洲病院に、大阪開催の大会については大阪厚生年金病院へ、名古屋開催の大会については名古屋第二赤十字病院へ依頼した。

なお、これら大会ドクターは、ドクター・トレーナー部会部会員のほか、聖マリアンナ医科大学、東京医科歯科大学、日本大学医学部、昭和大学医学部藤が丘病院、東京慈恵会医科大学、北里大学医学部、東海大学医学部、茨城医療大学、筑波大学大学院、群馬大学医学部、横浜市大医学部、杏林大学医学部、京都市立病院、大阪大学医学部、兵庫医科大学、武田総合病院、よしだ整形外科、大阪北通信病院、大阪府立母子保健総合医療センター、奈良県立医科大学、半田市民病院、北斗病院、名古屋大学、名古屋市立大学、愛知医科大学、岐阜大学、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、秋田大学医学部、山形大学医学部、河内総合病院、各医局のご協力を頂き、ローテーション体制で派遣した。

また、大会トレーナーのみを派遣した大会は、「DUNLOP ジャパンオープンジュニア」(名古屋)「トヨタジュニア」(名古屋)「全日本ジュニアテニス選手権」(大阪)「アジアATF U-14 シリーズトーナメント」(山梨)「全国中学生テニス選手権」(東京)「関東大学リーグ」(有明)「全国中学生選手権大会」(名古屋)「埼玉国際女子」(埼玉)「全日本ジュニア選抜室内選手権大会」(大阪)「全日本学生選手権大会」(有明)「全日本学生大学対抗王座決定試合」(岐阜)「全日本学生室内選手権大会」(京都)である。

- 2) 指導者講習会等への講師派遣
- 3) 「地域ジュニア選手トレーニング・測定合宿」へのドクター派遣

事業区分：11

事業名：テニス障害の対策

- 1) 「テニス・メディカルセミナー」の開催
 - ① 「第28回テニス・メディカルセミナー」

期日：平成21年7月18日(土)

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

講師：藤巻弘太郎先生(パストラル歯科 副院長)

テーマ：「歯がもたらすテニスへの影響」～噛み合わせが心身を変える～

参加者：85名
 - ② 「第29回テニス・メディカルセミナー」

期日：平成21年11月28日(土)

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

講師：佐藤雅幸先生(専修大学 教授)

堀内正浩先生(聖マリアンナ医科大学神経内科 講師)

テーマ：「テニスとイップス」

～体が勝手に変な動きをしはじめたらどうするか～

～体が固まって動かなくなったらどうするか～

参加者：90名
 - ③ 「第30回テニス・メディカルセミナー」

期日：平成22年3月13日(土)

会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

講師：田島康介先生(大田原赤十字病院 整形外科副部長)

テーマ：「運動器の痛みやしびれに対する漢方治療」

～スポーツから日常生活まで種々の症状に対するテイラーメイド医療～

参加者：70名
- 2) AED(自動体外式除細動器)の諸大会への配備
ドクター・トレーナー部会が管理運用を担当しているAED3台を「デ杯」「フェド杯」「全日本ジュニア選手権大会」「全国中学生選手権大会」「AIG OPEN」「全日本ベテラン選手権大会」「全日本選手権大会」「全国レディース決勝大会」等の各大会に配備、フルに活用した。

事業区分：11

事業名：選手の痙攣防止対策の立案・提言

事業区分：11

事業名：スポーツビジョン(スポーツに必要な視覚能力)の啓蒙と普及

事業区分：11

事業名：ドクター・トレーナー業務の充実

- 1) テニスメディカルスタッフ研修会を3回開催
会場：聖マリアンナ医科大学・別館8階 臨床講堂

期日：平成 21 年 7 月 18 日（土）

- ①「内科的応急処置」及能茂道先生（及能内科クリニック）
- ②「コートルール(On court での実際)」村木良博トレーナー（ケアステーション）
- ③ 症例検討会

期日：平成 21 年 11 月 28 日（土）

- ①「トレーナー業務に必要な手順」茂木奈津子トレーナー（花田学園）
- ②「熱中症・けいれんのメディカルチェック」
堀内正浩先生（聖マリアンナ医科大学神経内科 講師）
- ③「テニスにおける頸椎・腰椎障害」平泉裕先生（昭和大学整形外科 准教授）

期日：平成 22 年 3 月 13 日（土）

- ①「ジュニアテニストーナメントにおけるトレーナー活動の留意点」
太田圭介トレーナー（大阪社会体育専門学校）
- ②「ジュニアのテニス障害」赤池敦先生（横浜市スポーツ医科学センター）
- ③ 症例検討会

2) 日本体育協会公認アスレティックトレーナー養成講習会

事業区分：1 1

事業名：地域メディカルサポート体制の整備

- 1) 日本テニス協会医事委員会が無くなったため、ドクター・トレーナー部会、テクニカルサイエンスサポート部会、アンチドーピング委員会の 3 つの合同ミーティングを行い、情報の共有化を図っている。

このミーティングは、テニスメディカルスタッフ研修会およびテニス・メディカルセミナーの前に行っており、全国のドクターの協力体制をさらに強化できるものであり、また学会等で、さらにテニスを愛好されるドクターへの協力もお願いしている。

- 2) 日本体育協会の公認スポーツドクター養成講習会への推薦

以上

国体委員会（委員長：森 清吉）

事業区分：2

事業名：第 6 8 回国民体育大会（東京都）第 1 回中央競技団体正規視察

事業内容：世田谷運動総合公園、厚生年金スポーツセンター、駒澤オリンピック公園、

期日：平成 21 年 5 月 8 日（金）9:30～15:30

場所：世田谷区

参加者：森 清吉（国体委員長）、杉澤雅敦（副委員長）、鈴木宏（事務局長）

内容：テニスコート視察、宿泊、輸送、競技運営に関し、助言及び指導

事業区分：2

事業名：第 3 3 回全日本都市対抗テニス大会抽選会ならびに準備等

事業内容：抽選会及び会場最終視察並びに開催準備

期日：平成 21 年 6 月 1 7 日（水）9:50～15:30

場所：千葉県柏市 アミュゼ柏

出席者：森清吉（国体委員長）、杉澤雅敦（副委員長）、鈴木宏（事務局長）

千葉県テニス協会、柏市国体準備室、山口県テニス協会（視察）

内容：千葉県立柏の葉公園庭球場（8 面）ナイター 4 面

メイン会場となるが掲揚ポールがなく、国体時には対応する。

審判台が低いが手当てし使用。選手控室用にテントを 7 張、陸上競技場の

- スタンドの一部と更衣室・シャワー・トイレを利用。
- 柏市柏の葉庭球場（8面）
 - 国体までに芝の張り替え・審判台の購入を予定。
- 柏市富瀬運動場庭球場（8面）ナイター4面（21:00まで）
 - 5・6番コートの張り替えを予定。都市対抗時は5面使用、国体時は8面使用。
 - ナイター設備の照度を確認・オーダーオブプレーの事前の作成を依頼。
 - 3会場のシャトルバスの運行を検討する。
 - ドロー表に変更届けを同封し、できる限りプログラムに記載する。
 - 抽選

事業区分：2

- 事業名：全日本都市対抗テニス大会の実施
 - 第33回全日本都市対抗テニス大会（第65回国民体育大会リハーサル大会）
- 事業内容：期日：平成21年7月16日（木）～19日（日）
 - 場所：県立柏の葉公園庭球場8面、市立柏の葉庭球場8面、富勢運動場庭球場5面を使用
 - 人数：総参加人数は384人

事業区分：11

- 事業名：国体委員会の開催
- 事業内容：第1回国体委員会
 - 期日：平成21年7月16日（木）14:50～17:07
 - 場所：ザ・クレストホテル柏
 - 出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本常任委員
 - 田中・奥村・浅沼・石原・小野・磯辺・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
 - 鈴木 JTA 事務局
 - 陪席者：千葉県 TA、新潟県 TA、九州 TA、山口県 TA、
 - ※各県行政関係者含む
 - 内容：①財団法人 日本体育協会報告の件
 - ②千葉県都市対抗テニス大会（国体テニス競技を含む）の件
 - ③新潟国体テニス競技の件
 - ④山口国体テニス競技（都市対抗テニス大会を含む）の件
 - ⑤岐阜国体テニス競技（都市対抗テニス大会を含む）の件
 - ⑥各地域報告の件
 - ⑦山口国体テニス競技における競技補助員の件
 - ⑧国体テニス競技参加資格の件
 - ⑨その他

事業区分：11

- 事業名：国体委員会の開催
- 事業内容：第2回国体委員会
 - 期日：平成21年9月5日（土）11:50～13:30
 - 場所：岸記念体育会館 5階 505会議室
 - 出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本常任委員
 - 田中・奥村・浅沼・石原・小野・磯辺・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
 - 鈴木 JTA 事務局
 - 陪席者：千葉県 TA、新潟県 TA、
 - ※各県行政関係者含む
 - 内容：①新潟国体シードの件「マニュアルの確認」
 - ②財団法人日本体育協会報告の件
 - ③国体ならびに都市対抗準備状況報告

- ④山口県都市対抗開催要項案の件
- ⑤山口県国体テニス競技補助員の件
- ⑥国体テニス競技参加資格の件（プロフェッショナルの参加）
- ⑦国体委員会常任委員の件
- ⑧国体時の監督の資格に関して（平成 23 年より実施となるため、少年種別の有力高監督には、資格を取得するように指導して欲しい等）
※第 3 回国体委員会において、各都道府県 TA 理事長宛、「取得依頼」、「飛び級」の件を書類にて発送することを決定。
- ⑨その他

事業区分：2

事業名：第 6 4 回国民体育大会抽選会並びに準備等

事業内容：参加資格確認並びに抽選

期 日：平成 21 年 9 月 5 日（土）14:00～15:30

場 所：岸記念体育会館 5 階 504・505 号会議室

出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本常任委員

田中・奥村・浅沼・石原・小野・磯辺・荒谷・福井・堀川・田辺各委員
鈴木 JTA 事務局

陪席者：千葉県 TA、新潟県 TA、 ※各県行政関係者含む

抽選立会：（財）日本体育協会 不老浩二国体副委員長、木内貴史国体委員
国体推進部国体課 染谷大輔

事業区分：2

事業名：第 6 4 回国民体育大会（新潟県）開催

事業内容：10 月 1 日（木）の代表者・監督会議において参加選手の変更及び確認事項

期 日：平成 21 年 10 月 2 日（金）～5 日（月）

場 所：新潟県長岡市 希望が丘テニス場

南魚沼市 大原運動公園テニスコート

参加数：成年男子 32 都道府県 64 名、成年女子 32 都道府県 64 名

少年男子 47 都道府県 141 名、少年女子 47 都道府県 141 名

合計 410 名

事業区分：1 1

事業名：国体委員会の開催

事業内容：第 3 回国体委員会

期 日：平成 21 年 10 月 1 日（木）14:50～16:20

場 所：長岡グランドホテル 2 階「末広の間」

出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、佐伯・松本・田中常任委員

奥村・浅沼・石原・小野・荒谷・福井・田辺各委員、堀川忠史代理
鈴木 JTA 事務局

陪席者：新潟県 TA、千葉県 TA、岐阜 TA、山口 TA ※各県行政関係者含む

内 容：①新潟国体の件（選手・監督変更の件、その他）

②新型インフルエンザの件

③国体ならびに都市対抗準備状況報告
（千葉県、山口県、岐阜県、東京都）

④その他（プロフェッショナルオープン化の件、試合に出場できない選手の件、少年種別監督体協資格取得依頼の件）

事業区分：1 1

事業名：国体常任委員会の開催

事業内容：期 日：平成 21 年 10 月 3 日（土）13:30～14:00

場 所：南魚沼市 大原運動公園テニスコート内 会議室
出席者：森国体委員長、杉澤副委員長、松本・田中常任委員（佐伯委員は委任状）
鈴木 JTA 事務局
内 容：①代表者・監督会議の服装に関して
②国体・都市対抗の使用ボールについて
③代表者・監督会議でのメンバー変更の件

事業区分：7

事業名：財団法人日本体育協会国体競技運営部会への出席

事業内容：期 日：平成21年6月18日（木）14時より

出席者：森清吉国体委員長

以上

実業団委員会（委員長：矢澤 猛）

事業区分：2

事業名：1. 第24回テニス日本リーグの開催

2. 第23回全国実業団対抗テニストーナメント（A大会）の開催

3. 第48回全国実業団対抗テニス大会（ビジネスパル・テニス）の開催

4. 定例会議、日本リーグ関係会議他の開催

事業内容：

1. 第24回テニス日本リーグの開催

(1) 1st ステージ：平成21年12月3日（木）～6日（日）

会場：横浜国際プール・兵庫ブルボンビーンズドーム

(2) 2nd ステージ：平成22年1月22日（木）～24日（日）

会場：横浜国際プール・兵庫ブルボンビーンズドーム

(3) 決勝トーナメント：平成22年2月19日（金）～21日（日）

会場：東京体育館

男子16チーム、女子10チームをそれぞれ2ブロックに分けリーグ戦を行い、男子は各ブロック上位3チーム計6チーム、女子は上位2チーム計4チームによる決勝トーナメントの実施。試合は2シングルス・1ダブルスにて行う。

試合会場については、横浜国際プールと兵庫ブルボンビーンズドームの2会場開催になった。

東京体育館の決勝トーナメントは、男子は昨年同様、準々決勝から開始、1位～6位までの順位決定を行った。また、日曜日の試合開始前にチアリーディングチーム（日本女子体育大学）の演技を開催し大会を盛り上げた。準決勝戦および決勝戦・3位決定戦は同時試合開始形式で行い、チーム関係者や学生、一般の応援者が会場に足を運んでくれた。また大会会場を明るくするためにスタッフのユニフォームの配色を考えたり、臨場感を味わってもらうためにコートサイドの観覧席を設置し全体として選手・運営・観客の一体化が進んでいる。

広報においては、決勝トーナメント開催前に日本経済新聞の朝刊紙面を使い告知記事を掲載したり、テニス雑誌には特集記事を組んでもらい、ホームページではテニスナビの協力を継続して観客動員を目的としながら社会に向けたアピールをした。

決勝の東京体育館では東京都生涯学習文化財団と東京都教育委員会主催の親子クリニックを開催。学連や私学の中学高校へ決勝トーナメント観戦招待を行い学生の関心も高めている。

またアンチドーピング対象大会の指定が継続され検査が実施された。

尚、今後の日本リーグのあり方については、各方面の意見を聞きながら引き続いて検討していく。今大会から「外国籍選手枠」を1ポイントとし、決勝ダブルスでは10ポイントタイブレイク方式の導入を行い評価があった。2nd ステージが全豪オープンと重なる問題に関し

ては1週間遅せた大会期日で対応している。

2. 第23回全国実業団対抗テニストーナメント(A大会)の開催

平成21年10月9日(金)～12日(月・祝)

会場：広島広域公園テニスコート

日本リーグ昇格チーム決定の大会で、男子16チーム、女子15チームにより行われ、男子は上位4チームが昇格を決めた。女子は上位2チームが日本リーグ降格2チームと入れ替え戦を行い2チームが昇格。試合は日本リーグと同じく2シングルス・1ダブルスにて行う。

A大会に参戦する女子チームの減少傾向であったが、補強選手登録制度を利用したチームも増えてきている。勝ち進んだ場合に日本リーグへの昇格意思を示すチームも増えてきているのは明るい材料である。

3. 第48回全国実業団対抗テニス大会(ビジネスパル・テニス)の開催

平成21年8月28日(金)～30日(日)

会場：大分県 大分スポーツ公園 市営駄ノ原コート

男子32・女子24チームの1シングルス・2ダブルスによるリーグ戦及びトーナメントを行う。リーグ戦各ブロックの同順位毎にトーナメントを行うため全チーム2～3日間にわたり試合を行う。九州・大分での初めてのスポット開催となり暑さが懸念されたが、準備を万全に行いスムーズに進めることが出来た。次回は北海道・帯広で3年ぶり2回目の開催となる。

大会を活性化していくために全国委員会で議論をし改善できるところから実行に移している。

4. 定例会議、日本リーグ関係会議他の開催

(1) 全国実業団委員会

① 第1回全国実業団委員会：平成21年7月4日(土) 会場：兵庫ブルボンビーンズドーム

② 第2回全国実業団委員会：平成22年3月6日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(2) 全国実業団常任委員会

① 第1回常任委員会：平成21年5月9日(土) 会場：岸記念体育会館

② 第2回常任委員会：平成21年10月3日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(3) 日本リーグ部長会

① 第1回部長会：平成21年5月9日(土) 会場：岸記念体育会館

② 第2回部長会：平成21年10月3日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(4) 日本リーグ監督会議・運営委員会：平成21年11月21日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

(5) 検討委員会

① 日本リーグ検討委員会：平成21年4月4日(土) 会場：荏原奥沢会館

② 日本リーグ臨時検討委員会：平成21年9月12日(土) 会場：千代田区スポーツセンター

5. 実業団事務局新体制

21年度より実業団委員会事務局の業務委託先であった(株)スポーツブランドウとの業務委託を終了し、業務内容を継承している新しい業務委託先に実業団事務局を移行した。

新事務局体制では、業務内容の改善を図り、実業団委員会の大会・行事を滞りなく終了し年間通して事務局業務を遂行した。

以上

ベテラン委員会 (委員長：土屋 善二)

1. 全国ベテラン委員会他、平成21年度中に6回のベテラン委員会を開催し、ベテラン大会の活性化と諸問題点を協議。大会の運営に関し協力を行った。

2. 第71回全日本ベテランテニス選手権大会の開催

予選：平成21年10月6日 男子65, 70, 75才以上, 女子55, 60, 65才以上
平成21年10月8日 男子60才以上
平成21年10月9日 男子35, 40, 45才以上
平成21年10月11日 男子50, 55才以上, 女子40, 45, 50才以上

本戦：平成21年10月7日(水)～10月17日(土)

種目：男子単 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80才以上 10種目
男子複 35, 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70, 75, 80才以上 10種目
女子単 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70才以上 7種目
女子複 40, 45, 50, 55, 60, 65, 70才以上 7種目 以上34種目

会場：名古屋市・東山公園テニスセンター
(室内外共砂入り人工芝コート20面*内4面室内)

参加資格：①JTAに当該年度(2009年度)の選手登録を行なった選手・プロフェッショナル登録者

②ベテランJOPランキング規程によるベテランJOP取得者

参加人数：予選 男子単9種目221名, 女子単6種目118名, 計339名

本戦 男子単10種目235名, 男子複10種目334名, 計20種目569名

女子単7種目122名, 女子複7種目270名, 計14種目392名

参加総数 計34種目 延1300名(ウェイティングを含む)

グレード：A

補足：①第71回全日本ベテランテニス選手権大会参加者は、全国的なベテランテニス活性化に伴い、毎年増加傾向にある。

②ベテランJOP対象大会は、グレードAの本大会を頂点として、B1(1大会), B2(2大会), C1(2大会), C2(2大会), D1(5大会), D2(2大会), E1(32大会), E2(25大会), FHG(44大会)および日本スポーツマスターズテニス競技の計117大会がある。

③女子70才以上シングルスが本年度より正式種目となり、10名参加した。

3. 第32回全日本グラスコートベテランテニス選手権大会の主催及び運営協力

本戦：平成21年11月1日(土)～11月17日(月)

種目：男女単複34種目

会場：佐賀市・グラスコート佐賀テニスクラブ(天然芝コート16面)

参加資格：①JTAに当該年度(2009年度)の選手登録を行なった選手・プロフェッショナル登録者

②ベテランJOPランキング規程によるベテランJOP取得者

参加人数：男子単10種目260名, 男子複10種目144組288名, 計20種目548名

女子単7種目124名, 女子複7種目108組216名, 計13種目340名

参加総数 計34種目 888名(ウェイティングを含む)

グレード：B1

補足：①全日本ベテラン選手権大会に次ぐ大会であり、わが国唯一の天然芝コートでの大会である。

②参加者数は20年度大会と比較して増加しており、非常に良い傾向にある。

4. 47都道府県協会主催ベテランJOPグレードE大会FGH大会の推進と運営協力

事業内容：ベテランテニスの発展拡充計画の一方策であるJOP対象大会を公認し、グレードE大会(都道府県単位で開催)は、各協会のご協力を得て、21年度E1(オープン)は32大会、E2(クローズ)は25大会、計57大会が開催された。

グレードFGH大会(市町村・クラブ単位で開催)は身近な大会でもあり、昨年の37大会から44大会へと増加した。ベテラン選手登録者も昨年3月末7245名から本年3月末現在7585名と増加した。高齢化社会に伴って、今後更なるベテランプレイヤーの増加が見込まれる。

また、各種の大会開催の環境を整備し、充実した運営に協力した。

5. 日本スポーツマスターズ・テニス競技の運営と協力

主催者財団法人日本体育協会の委託事業として第9回本大会を共同主催し、運営主管の静岡県テニス協会の運営に協力した。

抽選会：平成21年8月7日

岸記念体育会館 101号会議室

前夜祭：平成21年9月18日（金）

「ホテルセンチュリー静岡」にて

期日：平成21年9月19日（土）～21日（月）3日間

会場：浜松市花川運動公園庭球場

開始式：平成21年9月19日（土）9:00～

開始宣言……………大会ディレクター 土屋善二

大会会長挨拶…日本テニス協会副会長 田中耕二（盛田会長代理）

歓迎の言葉……静岡県テニス協会会長 宇田川喜八郎

〃 ……浜松市長 鈴木康友

〃 ……大会シンボルメンバー 佐藤直子

競技説明……………大会レフェリー 陰山正敏

種目：男子単 35才以上、複 45才以上、女子単複 40才以上 4種目

参加資格：JTA選手登録者にして、各都道府県協会の推薦（推薦方法は任意）による男女単複各1名1組（主管担当県は2名2組）48ドローとする。

参加人数：男子単 48名、複 48組（96名）計 144名

：女子単 48名、複 48組（96名）計 144名 合計 288名

補足：全種目不参加は、佐賀県の1県であった。

6. 国際ベテラン大会への選手派遣

①アジア都市対抗ベテラン大会

本大会は、アジア地域ベテランテニスプレーヤーの相互理解と友情を深めると共に、ベテランテニスを通じて、国際親善に大いに貢献する事を目的として、1986年より開催され、本年度も日本選手団一チームを派遣した。

主催：アジアテニス連盟（ATF）

期日：平成21年11月2日（月）～7日（土）6日間

会場：中国・上海 Xian テニスセンター

種目：男子複 55, 60, 65, 70, 75才以上各1組

女子複 60, 65才以上各1組 計7組による団体戦

②第23回北京市国際元老網球大会

主催：北京市網球協会 北京市元老網球協会

期日：平成21年10月23日（金）～29日（木）

会場：中国・北京市

種目：男子ダブルス9種目 シングルス7種目 計16種目

女子ダブルス7種目 シングルス6種目 計13種目

混合ダブルス3種目

参加人数：20名（現地参加5名含む）

7. 財団法人日本体育協会主催日本スポーツマスターズ委員会への出席

①スポーツマスターズ2009富士山静岡大会第1回連絡会議

期日：平成21年4月16日

場所：日体協理事監事室（2F）

出席者：土屋善二、帆足佳子

②スポーツマスターズ2009大会第1回マスターズ委員会

期日：平成21年6月9日

- 場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
 出席者 : 帆足佳子
- ③スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会第 2 回連絡会議
 期 日 : 平成 21 年 6 月 18 日
 場 所 : 岸記念体育会館 101・102 号会議室
 出席者 : 土屋善二、帆足佳子
- ④スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会組合せ抽選会
 期 日 : 平成 21 年 8 月 7 日
 場 所 : 岸記念体育会館 101 号会議室
 出席者 : 土屋善二、中西伊知郎、清水民司、陰山正敏、和田光代、高木郁生、山口孝子、青山剛、村上交周、帆足佳子
- ⑤スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会第 3 回連絡会議
 期 日 : 平成 21 年 8 月 27 日
 場 所 : 岸記念体育会館 101・102 号会議室
 出席者 : 帆足佳子
- ⑥スポーツマスターズ 2009 富士山静岡大会第 4 回連絡会議
 期 日 : 平成 21 年 11 月 19 日
 場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
 出席者 : 帆足佳子
- ⑦スポーツマスターズ 2009 第 2 回マスターズ委員会
 期 日 : 平成 22 年 3 月 9 日
 場 所 : 日体協理事監事室 (2F)
 出席者 : 中西伊知郎、帆足佳子

以上

審判委員会 (委員長: 岡村 徳之)

事業区分: 4

事業名: 国際審判員、レフェリー養成事業並びに審判員、レフェリー養成事業の開催

- 事業内容: 1 有望新人の発掘と審判員育成のために各大会において評価を実施した。
 2 ITF レベル 1 スクールの開催: 7 月 NTC にて開催 11 名
 3 ITF 資格取得のための特別会議の開催: 1 月
 4 審判員育成のため国内の ITF 大会へ派遣の旅費、宿泊の補助を行った

事業区分: 4

事業名: 審判員養成、拡大事業への開催

- 事業内容: 1 C 級審判員認定会への講師派遣: C 級認定会 年間計 18 回 派遣
 合格者総数 約 440 名
 ルール実技講習会 年間計 12 回 派遣 全国認定
 定会用教材を CDRom で作成し講義内容を充実すべく整備した。
 2 B 級審判員認定会 : 年 1 回 1 月 9, 10 日 NTC にて開催 24 名合格
 3 B 級レフェリー認定会 : 年 1 回 1 月 10, 11 日 NTC にて開催 17 名合格
 4 関東学生連盟の講習会 : 6 月東京にて開催 約 400 名
 専門学校における認定講習会 年間計 4 回開催 (C 級開催実績を含む)
 5 国体の審判員育成のため、マニュアル検討し、実技指導を行った。

事業区分: 2

事業名: 審判員派遣事業の開催

- 事業内容: 1、以下の大会にレフリー、チーフアンパイア、主審、線審の派遣を行った。
 国際大会 286 名 (レフリー、チーフ、主審) 2960 名 (線審)

国内大会 39名（レフリー、チーフ、主審） 661名（線審）

全日本選手権、全日本室内、日本リーグ

ITF 男子フューチャーズ 9大会

ATP チャレンジャー 3大会

ITF 女子サーキット 21大会

WTA ツアー 2大会

ITF ジュニア 5大会

ITF 車いす 1大会

JTA 大会 3大会

アジアユースパラゲームズ（東京体育館）

2、海外大会への派遣を行った

全豪オープン、ウィンブルドン、全米オープン、東アジア大会、デフリンピック、WTA, ATP, Fed カップ、ITF サーキット等

3、各大会に派遣した審判員よりレポートを提出してもらい情報集積をした。

事業区分：8

事業名：ルールブックの編集と発行事業

事業内容：ルールブック 2010 の編集と出版（2万部）

ルールに関する問い合わせへの回答・年間 60 回程

事業区分：4

事業名：公認審判員管理登録事業の開催

事業内容：1 審判員の登録管理

2 新規登録並びに登録更新

（2009 年度新規登録者 C 級審判 805 名、B 級審判 24 名、B 級レフェリー 17 名）

事業区分：1 1

事業名：他のスポーツ・諸外国テニス界の審判育成システムの調査事業の開催

事業内容：諸外国テニス界の審判育成システムの調査を行った。

事業区分：1 1

事業名：審判関連情報提供事業の開催

事業内容：審判員の新規獲得を効率よくすることを目的に審判募集を初めとした案内を JTA ホームページに開設またルールの改定点などもそこでアップデートすることを開始した。

以上

専務理事直轄

全国プロジェクト（マネージャー：小浦 武志）

事業区分：1 1

事業名：47 都道府県トレーニングセンター（ふるさと TC）設置に向けた活動

事業内容：JTA 創立 100 周年を見据え、2002 年策定された強化指導指針におけるトレセン構想の具体化を図ることを本委員会の活動目標とした。これに沿って以下の活動を行った。本年度は主に準備期間としてトレセン活動に関する実態の把握と、具体的な設置基準の策定に当たった。

1. ふるさとトレセン設置に関して、先進モデル県の視察

- 4月3日愛媛県テニストレーニングセンターの視察
2. ふるさとトレセン構想を具体化するためのマーケットリサーチを実施
全国の担当者間のネットワーク作り、活動費、事業内容等の実態調査をジュニア委員会と連携し行った。この調査を参考にして、次年度以降の設置推進戦略に役立てることとした。具体的には現場指導者の認識度、理解度は高いため、決定権を持つ都道府県テニス協会トップの方への働きかけが重要とした。
 3. ふるさとトレセン設置基準の策定
各都道府県の実情に合わせた実施基準になるよう会議で骨格をまとめ、その後メール会議で協議、調整して、ふるさとトレセン設置基準を制定した。これにより、次年度への具体化に向けての準備が完了した。
 4. ソフトテニスとの協力関係
1月9日秋田市において、秋田県テニス協会及び秋田県ソフトテニス連盟の協力で指導者講習会を開催。将来的なトレセン活動の一環としての手法の実験的開拓を行った。

事業区分：11

事業名：ワンコイン制度の定着と発展

事業内容：ワンコイン制度推進委員会と連携し、本制度の定着と発展を側面から支援する広報活動を行った。具体的には、ふるさとトレセン活動は、巨視的には中央拠点である味の素TC活動の一環であり、このことをふるさとトレセンの設置依頼での面談説明や指導者講習会等を利用して広報活動を行った。

事業区分：11

事業名：国体テニス競技におけるテニスコートサーフェスの検討(国体委員会と連携)

事業内容：強化本部からハードコート宣言が発信されたことを受けて、国体開催地でのコートサーフェスの改修や、ふるさとトレセンの拠点設置基準に、テニス強化の観点から、会場をハードコート(またはクレーコート)にするよう推奨、働きかけをした。
岐阜県ではほぼハードコートに改修することが決定し、また数か所の会場では、この宣言に則った方向で、関係行政機関と県テニス協会等の間で検討が進められている。近年のハードコートは、スローハード、あるいはソフトな感触が謳われ、一般の方々にもアピールできる商品が開発されており、次年度以降も、全国プロジェクトの活動の一環として、都道府県を訪問する機会を捉え、ハードコート宣言のさらなる具現化に取り組む。

以上

財務管理委員会(委員長：岡橋 修)

事業区分：11

事業名：JTAの健全な財政体制確立と維持及び適正な会計処理を行う

事業内容：①旧来、総務・財務本部管轄であった財務委員会を発展させ、専務理事直轄委員会の一つとして新たに発足した。
②予算編成会議を開催し、JTAの予算、決算及び収支に対する助言を行った。また、事務局に対しては会計管理システムの側面支援を行った。
③財源確保、財務管理、規程等につき議論し、本部に属さない組織としてのチェック機能を発揮すべき方向性を確認した。
④「悠遊会」(財界トップとの懇親テニス会)の企画と第1回テニス懇親会の開催を行った。また、関係方面と調整を行い、その後も定着を図った。

以上

常務理事会直轄

倫理委員会（委員長：佐藤 政廣）

1. 委員会活動の方向性

- ① 本年度の財団法人 日本テニス協会の組織改革により、倫理委員会は専務理事直轄組織から常務理事会直轄組織へと変更となった。
- ② 日常的に発生する倫理問題の取り扱いには JTA 倫理委員会だけの活動でなく、場合によっては、発生した地域・都府県協会での倫理的対応が早期の問題解決につながることから、地域・都府県協会にそれぞれの担当者一覧の作成を推進した。
- ③ 倫理問題発生への予防や啓蒙活動の重要性について周知し、合わせて倫理規定の運用の在り方への提言へのとりまとめにあたった。

2. 倫理規程の運用について

- ① 倫理規程の制定から3年が経過し、その間には多様な倫理問題が生じていることから従来の倫理規程をもってしては対応が困難な場合が生じてきたため、再度、内容の見直しや追加・修正等に向けての作業を継続して進めることとなった。
- ② 上述に従い、倫理規程の改定を平成21年度第5回常務理事会（平成21年8月27日開催）に行った。

3. 罰則規程の運用について

- ① 罰則規程の適用のあり方について、その軽重や期間等について各種のケースを取り上げながら慎重に運用の在り方について諮られ継続審議となった。

以上

危機管理委員会（委員長：内山 勝）

○新型インフルエンザ対策

1、全国選抜ジュニア選手権大会

- ・4月に千葉県で開催された全国選抜ジュニア選手権大会（14才以下・12才以下）に際し、関西地域で新型インフルエンザが流行し、学校・学級閉鎖が相次いだ為、関西地域の選手の同大会への参加を禁止とした。
- ・しかしながら保護者から参加を認めて欲しい旨の強い要望があり、行政・学校・病院・関西テニス協会、又 J T A 事務局・ドクター部会・ジュニア委員会の全ての部署と綿密に連絡・打ち合わせを行い、個々の選手の状況を把握した上で行政・学校・病院が許可した選手に限り、参加の許可を出すこととした。
- ・結果的には全選手の参加が可能となり、無事に終了した。

2、関西でのベテラン大会

- ・5月に関西で開催される予定であったベテラン大会は新型インフルエンザが流行している地域での大会であった為、前記ジュニア大会と同様に各方面と協議した結果中止とした。
- ・参加予定者がランキングポイント等で不利にならないように配慮された。

3、海外遠征

- ・新型インフルエンザが流行している海外で開催される国際大会に出場予定の一般・ジュニア選手に対し、書類の配布及び J T A ホームページで注意喚起を行った。
- ・一部のジュニア選手には渡航自粛のアドバイスを行った。

以上

国際委員会（委員長：川廷 尚弘）

1. 国際テニス連盟及びアジアテニス連盟、日本オリンピック委員会他団体の会議出席、並びに行事への参加。海外各国協会、大会への協力活動、及び関係者への対応と情報伝達

(1) 国際会議への派遣

1) 国際テニス連盟（ITF）関係

① 年次総会

2009年7月16日～18日 於：スペイン マドリッド

出席： 川廷栄一 副会長（ITF 名誉副会長）

内山 勝 常務理事（JTA 代表）

川廷尚弘 国際委員長（JTA 代表）

内容： 大会、行事、財務、その他の報告と提案、討議。規約の改正、会員資格の認定、競技規則の変更等を承認。

② 事務局：

川廷尚弘がアジア地域エグゼクティブとして、各国協会の組織指導、大会協力等に従事。

2) アジアテニス連盟（ATF）関係

① 年次総会

総会：2010年3月24日～26日 於：中国 江門

出席： 川廷尚弘 国際委員長（JTA 代表）

中川淳 JTA 事務局国際担当

内容： 大会、行事、財務、その他の報告と討議。規約の改正の承認。

2. 海外国際大会への出席及び総合国際競技会への参加

1) 東アジア競技会およびアジア連盟常務理事会

2009年12月6～10日 於：香港

出席： 川廷尚弘

辻村美和

2) フェドカップアジア予選、およびアジア連盟 会議

2010年2月2～6日 於：マレーシア

出席： 川廷栄一 副会長

川廷尚弘 国際委員長

3. 国際団体会議・行事への出席

(1) 国際会議への出席

1) 国際テニス連盟 ①オリンピック委員会

出席：川廷栄一（オリンピック委員）

②R&R会議（デ杯・フェド杯運営評価委員会）

出席：川廷栄一（R&R委員）

2) 国際大学スポーツ連盟（FISU）

①ユニバシアード準備会議

出席：川廷栄一（FISU テニス委員長）

2) インターナショナルローンテニスクラブ（IC）

①コロンバスカップおよびIC会議

出席：川廷栄一（IC JAPAN 会長）

吉井栄（IC JAPAN 事務局長）

以上